

失敗が実証された「戦略的忍耐」、今がリセットの時

金正日総書記の5月末の中国訪問と胡錦濤主席との首脳会談直後から、本格化する朝中経済協力は揺るぎないものとなっている。6月8日と9日に朝鮮と中国の西と東の国境地帯に設けられた黄金坪経済地帯と羅先経済貿易地帯の開発プロジェクトの着工式がそれぞれ大々的に行われた。中国は羅先経済貿易地帯の共同開発によって清朝末期 1860 年の「北京条約」で沿海州がロシア側に渡って以来 150 年の宿願であった「朝鮮東海への出港権」を得た。一方、中国政府は黄金坪経済地帯への投資については損失が出た場合 80%を補填する仕組みをつくったが、この手厚い保護のもと香港の世界的な半導体企業である新恒基グループが同地帯に総額 100 億ドルを投資する計画であるという（中国『経済観察報』6月18日付）。米国主導の対朝鮮経済制裁網が音を立てて崩れていく中、「北朝鮮崩壊」を待つ米国の「戦略的忍耐」の失敗はすでに実証されているが、オバマ大統領もそれに気づき始めたのだろうか。政府内に対朝鮮専門家シフトを敷こうとしているようだ。オルブライト国務長官の 2000 年 10 月の訪朝に同行したウィンディー・シャーマン元対朝鮮政策調整官を国務省ナンバー3 の政治担当次官に指名し、国家戦略会議（NSC）の新しいアジア部長に国家情報局で対朝鮮次席担当官に長く就いていたシドニー・セイラー氏を任命した。駐ソウル米大使には6者会談に長く携わり米側首席代表も務めたソン・キム氏がすでに着任している。議会では上院のジョン・ケリー外交委員長が「北朝鮮へのアプローチを再考する必要」を強調している。時間が味方していないことを米国政府は知ったはずである。今がリセットの時である。

— 目次 —

米国と北朝鮮：いやな選択の地 ジョン・ケリー米上院外交委員長 1

戦略的忍耐は戦略的大失敗

ジョンズ・ホプキンス大学・米コリア研究所研究員 ジョエル・ウィット&ジェニー・タウン 2

米国の対北食糧支援まで反対するとは ハンギョレ新聞 社説 4

北朝鮮の「南北秘密接触暴露」その後 チョン・チャンヒョン「民族21」代表 5

6者会談を諦めれば6者会談がいきる チャン・チャンジュン新世界研究所研究委員 7

〈インタビュー〉 **合法闘争を越えて抵抗権を行使しなければ**

金祥根（キム・サンゲン） 6.15 共同宣言実践南側委員会常任代表 8

平和希求し、経済発展優先で進む朝鮮

矢内真理子 同志社大学院社会学研究科博士前期課程子 10

★ トピックス：

- ◆ 日朝正常化議連が再始動 12
- ◆ 朝鮮学校の無償化訴え東京と大阪で集会 12
- ◆ 朝鮮学校：審査停止で訴訟準備、授業料無償化適用めぐり 12
- ◆ 朝中が黄金坪経済地帯と羅津・先鋒経済貿易地帯の開発プロジェクト着工式 13

★ ドキュメント：

- ◇ 朝鮮民主主義人民共和国政府の談話・声明 13
- ◇ 朝鮮半島日誌（2011. 5. 20 ～ 2011. 6. 30） 24

米国と北朝鮮：いやな選択の地

ジョン・ケリー 米上院外交委員長

ロサンゼルス・タイムズ 2011 年 6 月 26 日

ワシントンの北朝鮮へのアプローチは強硬で不適切と評価されてきた。われわれはこのアプローチを再考する必要がある。

61 年前の今週末（6 月 25 日）、北朝鮮の大砲が 38 度線に沿って火を放ち、米軍兵士 3 万 3 千人、中国志願兵 10 万人、朝鮮人 200 万人の生命を奪った戦争が始まった。

現在、恒久的な平和を築く目標はつかみどころのない状態にある。朝鮮半島は事実上かつてないほど危険な状態にある。北朝鮮は 2 度核実験を行い、核兵器を運搬するミサイルを開発している。また、より多くの核兵器をつくるため高濃縮ウランを生産できる施設を建設した。国連の武器輸出禁止措置をものともせず、武器と繊細な技術をミャンマーのような善くないパートナーに輸出し続けている。また昨年、1953 年の停戦協定以来もっとも致命的な事として、北朝鮮の魚雷によって 46 人の南朝鮮の水兵が死亡し、延坪島砲撃によってさらに 4 人の南朝鮮の人々が殺害された。それらすべてに対する米国の反応は本当に強硬であったと評価されてきたが、それはまた不適切でもあった。

北朝鮮の核兵器を無くすための 6 者会談の最終ラウンドから 3 年以上が過ぎたが、この外交的隙間が危険な行いによって生じてきたのは偶然ではない。強い制裁と南朝鮮と日本との緊密な協調というわれわれの現在のアプローチは、状況を安定させる十分なテコを提供しておらず、ましてや北朝鮮の行いに変化をもたらししていない。ピョンヤンは、チェックも受けずに、より多くの核兵器を製造、実験し、米国を直接脅かすことの出来るミサイルを開発するであろう。

何がわれわれの選択肢なのか。6 者会談にすぐ戻ることは不可能である。南朝鮮は北朝鮮が最近の悪行について償わない限り 6 者会談には参加しないであろう。また、北も 2012 年の指導者継承が近づく中で、ひ弱に見えてはいけなないので協調することを嫌がっている。

同様に、中国がその気になって適用できる圧力にも限界がある。中国は北朝鮮の同盟国、最大の貿易相手国としてもっとも大きな影響力をもっている。しかし中国は北朝鮮の崩壊というリスクを負いたがらない。さらに、ピョンヤンは北京のパトロンからよいアドバイスであっても頑なに抵抗する傾向がある。

最善の代案は、米国が北朝鮮に直接関与することである。われわれは皆、北朝鮮の野蛮さ、すなわち譲歩して瀬戸際から交渉に戻ることを要求した後に緊張を高める慣習とそのプロセスの繰り返しにうんざりさせられてきた。しかし、ある専門家が言ったように、北朝鮮は何もしないことが危険な状況をさらに悪化させる「いやな選択の地」なのかもしれない。

したがって、われわれは常に同盟国である南朝鮮と緊密に連携しながらも、脅威を減らし朝鮮半島を非核化への道に変えることの出来るステップを探らなければならない。完全な非核化実現には時間がかかるであろうが、当面、われわれは北朝鮮のウラン濃縮の中止と核兵器とミサイル実験の凍結、核分裂物資を生産できる新しい燃料棒の除去、寧辺原子炉の解体のための交渉を試みるべきである。

確実なことは、現在の諸関係の状態ではこのような敏感は対話をすぐに始められそうにないということである。したがって、ゆっくりと始める必要がある。

よい出発点は、2005 年当時の国防長官ドナルド・ラムズウェルドによって中断された朝鮮戦争で行方不明になった米軍の北朝鮮における搜索活動を再開するために北朝鮮との対話を再開することであろう。北は再開に意欲的である。これによって朝鮮人民軍とコミュニケーションする直接的なチャンネルが開かれ、米国人が誰も残っていないことを担保する莊

厳な使命のために米国兵士が北朝鮮の戦場に戻ることになる。

われわれはまた、飢えている北朝鮮の子どもや弱者へ米国の慎重なモニタリングによる食糧支援を再開すべきである。ロバート・キング北朝鮮人権問題特使の最近のピョンヤン訪問は、人道問題を政治と切り離す米国の長く賢い伝統の反映である。もし、北朝鮮が 2008 年に米国 NGO の諸組織が食糧支援を行ったときのように厳格なモニタリングを許すならば、米国は北朝鮮の空腹な子どもたちに対する同情心を実証すべきである。

2 年間の沈黙に近い状態のあとの接触の再開は、最初は人道問題だけだとしても、協調が可能であるということを実証することになる。そしてその後、われわれは北朝鮮の核開発の放棄を含むよりタフな問題へと移ることが出来る。北朝鮮は変化し、指導者が交代し、外部世界との接触を増やしている。もしわれわれが、ピョンヤンに行いを改善する機会を与えれば、今後、われわれの核への関与が成功する確率は増える。

関係改善は、核のパズルを解き恒久平和をつくり出すうえで必要不可欠である。仲良くやっ払いこう。(“U.S. and North Korea: The land of lousy options” June 26, 2011, Los Angeles Times, By John Kerry a U.S. senator from Massachusetts, heads the Senate Foreign Relations Committee.)

戦略的忍耐は戦略的大失敗

ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係論大学院・米コリア研究所

ジョエル・ウィット客員研究員 & ジェニー・タウン研究員

フォーリン・ポリシー 2011 年 6 月 16 日

誇大宣伝を信じてはいけない：オバマの対北朝鮮政策はめちゃくちゃである

ニューヨーク・タイムズの 6 月 13 日付一面記事は、つい先日、米駆逐艦マックキャンベルが上海以南の海域で兵器とミサイル部品を積んでミャンマーに向かっていたと思われる北朝鮮の船をいかに途中で捕らえたかを伝えている。この船の船長は船への立ち入りを拒んだ後、北朝鮮に引き返した。一般の読者はピョンヤンを服従させるワシントンの努力が機能しているという印象を持つであろうが、まったくのごまかしである。

もちろん、北朝鮮が危険な技術を輸出しようとするのを阻止するための国際社会のいかなる措置も称えられるべきである。しかし、わが米国の新聞報道を信じるような失敗を犯すことはやめよう。爆弾製造物資を生産するよう設計された原子炉を、まるごとシリアに輸出しようとしていた現金に飢えた識別不能な国の船を、時折途中で捕らえることで押え込むことはできないであろう。ところでこれも、国連の専門委員会報告書の漏えいの結果であるが、この報告書は北の不正輸出を阻止するわれわれの努力には大きなギャップがあることを証明している。

事実、最近の北朝鮮に関するニュースは、「戦略的忍耐」と呼ばれる政策をとってきた米政権にとってはほとんど悪いものばかりである。「戦略的忍耐」の本質は、北朝鮮と核交渉をする前に、まず同国が行動を改めるまで待つというものである。悪いニュースは数週間前に始まったが、それは過去 1 年間に金正日が異例にも 3 度中国を訪問したというものであった。この訪問は北朝鮮の体制を強化させ、逆に北朝鮮を孤立させようとする米国の政策を弱めるだけの経済的利益をもたらしたようである。

そこで金正日の訪中後すぐにピョンヤンは、北朝鮮首脳との会談を準備するためにソウルが行った秘密提案を暴露し、南朝鮮の李明博大統領との対話再開の可能性を潰した。ピョンヤンの動きは、2010 年に起きた南への挑発行動に対する北の謝罪に固執する南の政府を困らせただけでなく、6 者会談再開前に北南対話を求めてきたワシントンの地域戦略を故意に

破壊した。ついには、昨年暮れ国際社会に衝撃的に公表されたウラン濃縮プログラムの現場である寧辺にある北朝鮮の主要核施設のさらなる建設活動が報じられた。何が起きているかは明らかではないが、商業衛星写真によって同施設に動きがあることは明白になっている。しかし重要な点は、北朝鮮が核や長距離ミサイルの実験を行っていないので、核兵器の強化に取り組んでいないということではないということである。われわれが目撃しているのは、ウラン高濃縮から新たなミサイルに搭載する核弾頭の製造にいたる核開発における氷山の一角である。

これらすべての新事実、オバマ政権の政策が袋小路に陥ったことを示す明確なサインである。米国が現在のアプローチを継続するなら、南朝鮮に新たな大統領が登場するまで今後 2 年間、北朝鮮との核対話が行われなことはほぼ確実である。その間にも、北朝鮮が新たな核兵器用の高濃縮ウラン製造に取り組み、ミサイル発射システムをさらに発展させるなど、同国による挑戦は増すばかりであろう。わが米国を朝鮮半島での戦争危機へと追い込む北朝鮮のさらなる挑発行為もありえる。2010 年に政治的に困難な自制を働かせたソウルも立派ではあったが、より強力に対応する以外に選択肢はないであろう。

オバマ政権はこれらの新事実に気づかないでいるようだが、職を辞するジェームズ・スタインバーグ国務副長官の処方箋に従うほうがいいだろう。彼は「フォーリン・ポリシー」誌とのインタビューで「一度政策を策定したら、それが正しくまた永遠に正しいと思い込むようなことはあってはならない」と述べた。

米国の行動がこの危険な均衡を変えるのに役立つかもしれない。ワシントンは同盟諸国だけでなく中国やロシアなどの関係諸国の支持のもと、政策をリセットして北朝鮮との直接対話によって核交渉を再開するために先頭に立って努力すべきである。確かなことは何もないが、ピョンヤンは隣国の巨大な中国に近づき過ぎることを恐らく心地よく思っていないかもしれない。したがって北朝鮮は、強まっていく中国との結束とのバランスを保つためにワシントンからの働きかけに肯定的に応じるかもしれない。皮肉にも現在の膠着状態に不満を持っている北京は、米国のイニシアティブを歓迎するであろう。

新しいイニシアティブは、北南間の緊張から核脅威に至る喫緊の懸案に対処する小さな包括案の作成を追求すべきである。それは次の 4 つの主要素を含むべきであろう。

第一に、北朝鮮は北南間の対話を即座に再開する約束をするだけでなく 2010 年の北南間の衝突による人的犠牲について遺憾の意を表することである。ワシントンは、1996 年に北朝鮮の偵察潜水艦が江陵市近海で座礁し、乗組員を捕えようとして 16 人の南朝鮮兵士と市民が殺された際、同様の表現を取りつけるうえで役割を果たしたことがある。

第二に、ピョンヤンが、核とミサイル実験の凍結や、最近行われた半官半民の協議で 5 つの核兵器分に相当するプルトニウムを含んでいる新しい燃料棒を速やかに国外に搬出する提案を最後まで遂行する合意など、核交渉を再開するうえで真剣さを示す具体的行動を取ることに合意することである。

第三に、米朝双方が 6 者会談の即時再開のみならず、さらなる米朝直接対話に合意することである。多国間プロセスは重要であるが、二国間対話が進展をもたらす上で鍵となろう。

第四に、核交渉再開直後に当事国が朝鮮戦争停戦協定を恒久平和合意に替える朝鮮半島の和平プロセスを開始することに合意することである。北朝鮮の主要な要求であるこの面における進展は、緊張を緩和し今後の挑発を防止し、朝鮮半島における永続的な平和を構築するうえで役立つであろう。

もちろん、「悪魔は細部に宿る（＝物事は細部が難しい）」という諺があるが、私自身と他の米国人たちが参加した北朝鮮との最近のセカンド・トラック(半官半民)の協議に基づく、上記のようなイニシアティブが結果をもたらす良いチャンスは存在する。しかし、それは政治的な勇気と、今は存在しないかもしれないワシントンとソウルのリーダーシップを必要と

するであろう。

考慮すべき一つの重要な点は、米国が重要な同盟国である南朝鮮との緊密な関係の邪魔にならないように見せかけることを望んでいることを理解することである。しかしワシントンは、李明博が政権の座から去る日に向けて準備を始める必要がある。南朝鮮の次期大統領は、北と中国を分断してピョンヤンを屈服させようとする失敗した現在の政策を継続しないであろう。

南朝鮮との緊密な協議のもとで実行されるべき米国の新しいイニシアティブは、短期的にはソウルの現政権との緊張を引き起こすかもしれないが、南朝鮮の国民の間では米政権の人気の高いので歓迎されるであろうし、李の後任の大統領が誰になろうと緊密に連携していく確固たる基盤を築くことになるであろう。

過去数週間の出来事は、オバマ政権に北朝鮮政策をすみやかにリセットする重要な機会を与えた。この機会を生かさずに現在の政策を継続することは、米国と同盟国の安全保障上の利益を損なうピョンヤンの悪いふるまいをより多くもたらすだけであろう。それは核兵器庫の増加、大量破壊兵器技術輸出の危険性の増大、そして朝鮮半島における緊張激化の恒常化である。（“Strategic Patience Is Strategic Blunder,” by JOEL WIT, JENNY TOWN, Foreign Policy JUNE 16, 2011）

米国の対北食糧支援まで反対するとは

社説

ハンギョレ新聞 2011 年 6 月 3 日

ロバート・キング米国務省北朝鮮人権大使が去る 2 日、米下院外交委員会聴聞会で注目すべき発言をした。彼は韓国政府が米国の対北食糧支援を「望まない」という事実を公開の席上で明らかにした。その後「(米国は) 一部のイシューについて (韓国政府の見解に) 同意できない」とし食糧支援で「政治的考慮はしない」と釘を刺した。

これは米国の対北食糧支援政策が変化していることを示している。食糧支援が必要であると判断されれば、韓国が反対しても支援を強行すると読み取れるからだ。こうなれば人道的分野だけではなく、対北関係全般において韓国の立場が狭まることになる。もしかすると同盟国間のあつれきが生まれ、疎外される事態になるかも知れない状況だ。

キング特使が支援方式を相当具体的に明らかにした点も注目される。彼はコメのような北朝鮮軍に転用されるかも知れない食糧は除外して、韓国語が話せるモニタリング要員を現地に配置し、一度に多くの量を支援するのではなく徐々に支援すると述べた。これはこの間、わが政府と保守勢力が食糧支援に反対してきた理由をほとんど解消したことになる。これまでわが政府は「支援した食糧は住民ではなく軍隊に行く」、「北の食糧不足の主張は事実ではなく偽装戦術の可能性はある」というのを食糧支援に反対する主な理由にしていた。

EU と国連などの食糧支援の動きも、これ以上見過ごせない段階にきている。EU は今月中旬まで現地調査を終えることになっている。国連は傘下 3 機構の合同実態調査を行い、北側の住民 600 万人以上に 43 万トンの緊急食糧支援が必要だと 3 月に発表した。キング特使がパートナー国家及び供与国と緊密な調整を行っているとしたのは、このような調査を土台に国際的合意を引き出しているということだ。国際社会のこのような流れをいつまで見過ごそうというのか。

北朝鮮が暴露した「首脳会談・秘密接触」の内容を見ると、政府がこれまで対北食糧支援に反対したのは北との交渉のための政治的考慮によるものであったと疑心を抱かざるを得ない。今回の暴露により政府の食糧支援反対は一層名分を失った。これ以上既存の立場に固執せず方向を変えることを望む。国際社会が人道的次元で食糧支援を積極的に行うというの

に、同じ民族であるわれわれが知らん振りをするのは恥ずかしいことだ。

北朝鮮の「南北秘密接触暴露」その後

安倍内閣、ブッシュ政権の経験を反面教師にしなければ

チョン・チャンヒョン 「民族 21」代表、国民大学兼任教授

統一ニュース 2011 年 6 月 7 日

2006 年に就任した日本の安倍晋三総理は初めから日本人拉致問題の解決に強い意欲を見せた。2007 年の 6 者会談で 2.13 合意がなされたが、彼は拉致問題が解決されるまでは北朝鮮に何の支援もしないことを繰り返し表明した。日本は結局このような立場を貫き、重油など北朝鮮に提供する対価分担に参加しなかった。しかし、安倍総理が就任前の官房長官時代に政権交代後、拉致問題を私と解決しようとの趣旨の書簡を北朝鮮に送ったという噂が流された。これが事実であれば、裏で対話のメッセージを送りながら、表では北への強硬な立場を主導したということになる。

当時、安倍総理の「先拉致問題解決」という立場に対し、日本の自民党系政治家の中でも「日本の最大の国益は拉致問題の解決より核問題の解決」としながら、朝米交渉のムードを無視すれば 6 者会談の舞台で孤立する可能性があるという警告があった。また、日本が 2.13 合意を履行せず拉致問題で朝米の足を引っ張ると、北朝鮮が安倍総理の書簡を公開するかも知れないと推測する日本の北朝鮮専門家もいた。しかし当時北朝鮮は、朝・日交渉と関連した文書を公開しなかった。

それから 5 年余りが過ぎた 6 月 1 日、北朝鮮は李明博政権に向け「パンドラの箱」を開けた。「朝鮮中央通信」はこの日、国防委員会スポークスマンがインタビューに答える形で、李明博政府側の要請で 5 月に行われた南北間の秘密接触の内容を電撃的に公開した。それまで北朝鮮が南北秘密接触の内容を公開した前例がないという点で異例的と言える。それも会談参加者の実名まで公開した。

これ以降、北朝鮮の強硬攻勢が続いた。3 日には人民軍総参謀部が南の一部の予備軍訓練場で金日成主席と金正日、正恩父子の肖像画を射撃の標的にしたのをあげ、南側を猛烈に非難し、軍事的に報復すると脅した。「实际的で全面的な軍事的報復行動に突入することになるであろう」と警告まで発した。昨年、延坪島砲撃事件を経験した私たちとしては憂慮する状況であると言わざるを得ない。

今年に入って北側は「いったん対話に臨んですべての問題をテーブルに乗せて話し合おう」としながら「いま、北南関係が全般の分野で手足が縛られ、こじれて解くのか難しいようにみえるが、関係改善の意志を持って真摯に取り組めば解決できない問題などない」と表明した。今年に入って南北は「天安艦と延坪島事件に対する真正性」と「南北関係改善の意志」を確認するために、公開、非公開で意見を出し合った。

この過程で、わが政府内の一貫性のない対北政策が南北関係に混線をもたらしたように見える。俗に言う対北強硬派と穏健派の葛藤である。穏健派が「出口戦略」を主張し南北接触を通じて「ある種の合意」をすると、強硬派が覆すパターンが繰り返された。

北朝鮮国防委員会スポークスマンの「(南側当局者が) われわれとの初めの約束を破って『天安』号沈没事件と延坪島砲撃事件が、南北関係改善のために『知恵をもって越えなければならぬ山』だとし、われわれの『謝罪』を引き出そうと術策を弄し始めた。」との指摘がこれを示唆している。

金正日国防委員長は、4 月末にジミー・カーター前米国大統領一行が訪朝したとき、口頭メッセージを伝え「南側政府だけではなく米国政府、6 者会談の当事国ともいつでもすべての議題について前提条件なしに交渉する用意がある」と条件なき南北首脳会談を提案した。

北の提案は金正日国防委員長名義であるという点で最後の対話提案であった。しかし、突拍子もなく李明博大統領は5月9日のヨーロッパ歴訪中に金正日国防委員長を来年3月26日～27日に行われる第二回核安保サミットに招待すると提案した。そして北朝鮮の主張によるとこの日、李明博政権は北京秘密接触を通じて6月下旬に板門店で、8月にピョンヤンで、そして核安保サミットが予定されている来年3月にソウルで南北首脳会談を開催しようと提案したという。

この提案について時間の逼迫、来年の総選挙を控えた政治的布石など、あらゆる論考があるが、論外な問題は昨年下半年から行われた秘密接触の最大の争点だった天安艦と延坪島事件の謝罪を李大統領がまたも公開の場に持ち出したことだ。北側は当然、金正日委員長の首脳会談提案に対する拒否と受け取ったはずだ。とくに金正日委員長の5月末の中国訪問は事実上「李明博政権との南北対話に期待しない」という無言の宣言であった。ましてや青瓦台が5月の秘密接触を事実上公開したことや金日成主席と金正日、正恩父子の標的問題があからさまになることによって事態は膨れあがった。

対北食料支援や6者会談再開など、首脳会談開催のためのムードづくり無しで南北首脳会談が可能であると考えた無謀さと即興性、金正日委員長の首脳会談提案を真正性がないと一蹴しカーター訪朝の成果をないがしろにしておいて、秘密接触を通じて天安艦と延坪島事件に対する政治的妥結を試みるなど、一方的で二重的な態度により李明博政権は相対的な乱脈性をあらわにした。

もしかしたら、北側が秘密接触の録音やこれまでの秘密接触の文書も公開するのではないかと、戦々恐々としていると言うと大げさな評価であろうか。李明博大統領が任期内にどのような形であれ天安艦事件に対する北側の謝罪(?)表明を引き出そうと総力を傾けたが、恥をかいた格好だ。

米国はすぐさま事態の安定に乗り出した。米務省は対北食料支援プログラムに影響はないと言明し、ロバート・ゲイツ国防長官も「米国は北朝鮮の政権交代に関心はなく、北朝鮮を不安定にするのにも関心がない」と明かした。また4月にはキャサリン・ステイブンス駐韓米国大使が異例にも「北朝鮮との真摯な対話のために色々な接触と努力をしている」とし「1～2ヵ月の間によい状況になることを期待している」ことを明らかにした。米国は4月から既存のニューヨーク・チャンネルとは別の接触を通じて北朝鮮側と食糧支援及び6者会談再開について相当な意見の接近を見たことが伝えられている。

5月末には米国の北朝鮮人権特使が北朝鮮政府の招請で初めて訪朝し、北朝鮮外務省高官たちと人権問題について直接対話を行い、食糧分配過程のモニタリングを含め米国側が要求した食糧支援の条件について北側と合意した。

今の状況は、朝米間の力比べが終わり、6者会談を再開させようとする米国と「先天安艦事件謝罪」という留め金をかけるしかない南側政府との力比べが本格化する局面に変化しているということだ。「任期が終わるまで南北対話がなくても原則は守る」という李明博政権の底力がどこまで通じるのか気がかりだ。いまのままだ、北の核問題の解決よりも拉致問題解決に頑なにしがみつき、6者会談で孤立した日本の安倍元総理の轍を踏むのではないだろうか。

李明博大統領は昨年从去年から来年の核安保サミットの成功に相当な神経を使ってきたというのが衆論だ。就任後半期の最大の成功業績を喧伝し、来年4月の総選挙でもこれを活用しようという構想だったのであろう。核安保サミットの開催時期を3月に前倒した理由も自明である。しかし、南北対話の破綻は核安保サミットの開催成功に決定的な障害物となるであろう。昨年のように国民が「戦争」を危惧する状況まで悪化すれば、核安保サミットを開催できない可能性もある。

解決方法は以外に簡単である。まずは無能な外交安保ラインを全面交代すべきである。そ

して、民間の対北人道支援と交流・協力事業の禁止措置を全面解除しなければならない。米国の対北食糧支援より前に食糧支援を再開するのも一つの方法だ。当局間会談のためには金剛山観光再開のための提案が効果的である。北朝鮮を「悪の枢軸」と規定して対北強硬策を実施した米国のブッシュ政権が、就任 2 期目の後半期に積極的な朝米対話に出た経験を反面教師にしなければならない。

6 者会談を諦めれば 6 者会談がいきる

チャン・チャンジュン 新世界研究所研究委員

2011 年 7 月 1 日 統一ニュース

李明博政権の対北政策により 6 者会談がまたも座礁しそうな危機に直面している。李明博政権は今までつねに朝米対話と 6 者会談を妨害してきた。天安艦と延坪島事件を 6 者会談と分離するとしながらこだわり、また分離させるという立場を表明するなど、行ったり来たり of 行動は状況をより悪化させた。結局、北側は李明博政権を相手にしないという断絶宣言をするまでにいたった。

北側の断絶宣言は当初模索されていた「南北会談-朝米会談-6 者会談」という 3 段階の 6 者会談再開プロセスを拒否するという宣言であった。李明博政権の対北政策が変わらない条件で、3 段階プロセスは実現自体が不可能だと読み取れる。したがって、北側は 2010 年初旬に提起されていた「朝米会談-6 者会談」という 2 段階プロセスを念頭においているようだ。しかし、これも筆者が見るには実現困難だ。李明博政権が立場を変えない限り李明博政権が当事者として参加する 6 者会談の開催も不可能だからだ。

米国が李明博政権への説得に乗り出している。6 月 24 日、韓米外相会談以降、キム・ソンファン外交長官が天安艦と延坪島を 6 者会談と分離して対応するとの立場を表明したことは米国の「介入」を示唆している。しかし北側はこのような分離対応の立場は 6 者会談を妨害しようとするものだ と評価を切り下げた。

いかがわしい言葉で 3 段階プロセスを復活させようとするな というメッセージである。

『分離対応』をしても朝米会談と 6 者会談の再開を妨害しようという傀儡 (かいらい) どもの不純な下心に騙されない ので他の方法を探してみると、米国に警告していると見なければならない。したがって、いまの状況での解決方法は一つである。朝米対話を無条件で始めることだ。南北核会談という前提も 6 者会談につながるという前提も、すでに無駄であるという状況になってしまった。北側はこう強弁するだろう「李明博政権が妨害している条件で南北核会談や 6 者会談を開催できるか。かりに開催できるとしても成果を出せるのか？」

米国はこのような強弁に返す言葉が見つからない。間違った言葉ではないことが立証されたからだ。結局、米国はまたも 2 つの選択肢に迫られている。一つは無条件の朝米対話を始めることだ。この場合、朝鮮半島の状況は安定段階に入るだろう。延坪島事件以降、李明博政権の追加的な対北軍事演習に北側は軍事的に対応するという立場を発表してきたが、2010 年 12 月 20 日午前、ビル・リチャードソンとの核交渉の成功後、同日午後に李明博政権が進めた対北軍事訓練に北側は対応しなかった。米国の対応によって北側の対南軍事対応が変わるということを見せた。しかしこの場合、オバマ政権は韓米関係の悪化を甘受しなければならない。米国が簡単に決断できない理由がここにある。

もう一つの選択肢は韓米同盟を優先し 3 段階プロセスに固執することだ。この場合、韓米関係は安定するが韓半島の状況は悪化し南北間の軍事的衝突の可能性が高まるだろう。最近北側は「全面的な軍事的報復と無慈悲な懲罰措置」を連日のように強調している。

結局、韓半島における戦争と平和の問題は米国にかかっているととっても過言ではない。

前提条件なしの朝米対話に取り組み韓半島の平和を選択するのか、韓米同盟という枠の中で 6 者会談に固執し韓半島の戦争危機を演出するのか。

すなわち 6 者会談に固執するのか、朝米会談を選択するのかという問題である。6 者会談を固執すれば逆説的には 6 者会談は破綻する。6 者会談を諦めて朝米会談を選択すれば、6 者会談が再びいきる可能性がある。北の最近の強硬路線は米国の選択を迫っているのである。

〈インタビュー〉 6. 15 共同行事を遮られた 6. 15 南側金祥根常任代表

合法闘争を越えて抵抗権を行使しなければ

金祥根 6. 15 共同宣言実践南側委員会常任代表

統一ニュース 2011 年 6 月 13 日

南北海外が共同で 15 日、開城（ケソン）で行う予定だった「6. 15 共同宣言発表 11 周年記念平和統一民族大会」が 13 日午後政府の北朝鮮訪問不許可で霧散した。6. 15 共同宣言実践南側委員会の金祥根（キム・サンゲン）常任代表は 13 日の午後 1 時半「統一ニュース」とのインタビューで「不許可であっても 15 日は開城に行く」と言い、とくに「接触不許可」を「6. 15 委員会の瓦解工作」と受け止め異例にも「合法闘争を越える闘争」「抵抗権」「緊急措置」などの強硬な表現を使いながら毅然たる姿勢を示し注目された。

以下は金祥根常任代表と行ったインタビュー内容。

※訳者注：6. 15 共同宣言実践共同委員会は朝鮮分断以降もっとも広範な北、南、海外の政党、団体、人士を網羅して 2005 年 3 月金剛山で結成された合法的な統一運動連帯組織で北側、南側、海外側の 3 つの委員会で構成、運営されている。

5. 24 措置をさらに続けるなら「超法規的な緊急措置」

□統一ニュース：今年に入って 6. 15 民族共同委員会共同委員長会議と実務接触などがすべて政府によって不許可になったが、今回の 6. 15 行事の不許可もやはりこのような流れにみえるが？

■金祥根常任代表：私は 5. 24 措置自体に反対する。あつてはならない措置であり、どのように解除していくかの考えや対策もなしにむちゃくちゃに措置を取ったため当局もこれに縛られている。内容も、運営も絶対反対だ。「天安号事件」を北の仕業と発表して時限もなしに一年が過ぎてもまったく変わらず続けている。超法規的な緊急措置と考える。

□緊急措置といえば 70 年代の「緊急措置時代」が浮び上がるが？

■今がその「緊急措置」だ。会ってもだめ、実務接触もだめ、第三国で会うこともだめという。共同委員長会議もできないということは接触不許可を越えて 6. 15 民族共同委員会に対する瓦解工作だと見なければならない。

□統一運動または、6. 15 民族共同委員会にたいする瓦解と見るなら深刻な段階だが？

■私はそのように見る。絶対に会ってはいけない伝染病者の病院として扱おうとするなら政府も秘密接触をしてはいけない。

□政府の秘密接触に対する二重基準を指摘しているようだが？

■南北間の接触があつて幸いだという考えもある。しかし方法はアマチュア、いや子供のようだ。南が送ったメンバーのレベルで天安艦、延坪島問題に対しての謝罪について駆け引きができると思うのは子供じみている。首脳会談についてもそうだ。以前朴正熙（パク・

チョンヒ) 大統領の時も密使が往来し、数々の政権でもあったがどの政権もこのようなレベルで進めることはなかった。

「政府の行為に対して抵抗する段階に進まざるを得ない」

□南北当局間の関係が難しくなる時、民間交流も萎縮することは過去にもあった。6.15 南側委員会が現政権になって交流を不許可され萎縮して、克服方案を探せないでいるという批判があるが？

■6.15 共同委員会は民族共同行事の軸だ。今でも民族共同行事が可能になれば 6.15 南側、北側、海外側委員会がみな活性化するはずだ。その根源地が抑圧を受けているため活性化しにくい。しかし政府がこのような愚かなことをこれ以上長く持続できないようにする闘争をどれくらいしたのかという点では反省する。

□2009 年に 6.15 南側常任代表に就任後、南北共同行事を一度も開くことができなかったが？

■それだけでなく、私は北で行なわれた共同行事に一度も行くことができなかった。北で行われる共同行事の時も南側の行事があってそれを務めたからだ。

□政府が許さなければ今後も困難が続くようだが、どのように進めていく予定か？

■漠然としている。過去にもほぼ同じ時期があった。北側と接触すれば国家保安法によって拘束して監獄に送ったことがあった。汎民族大会の時は言うまでもなく大会を行ったら監獄に送られる時期もあった。しかし、これ以上この状態が続くことは、6.15 民族共同委員会の接触を防ぎ瓦解させる問題を通り越した民族の将来に関わる。今まで法の枠の中でいわゆる合法闘争をしてきたが、ある時点ではこれを越える闘争をしなければならぬ段階に至ることになる。政府の行為に対して基本的に抵抗する段階に進まざるを得ないようだ。私たち国民は主権者として誤った政府の政策に対する抵抗権も持っている。もちろん、政府は法の執行権者としてこれに対処するだろう。過去と同じだ。しかし、それでも合法闘争を越えて抵抗権を行使しなければならない。そのようにしてでも、突破しなければならないのではないのか。しかも来年は総選挙があり、国民がこの政権に審判をくださなければならず、またなぜ審判をくだすのか、国民に知らせなければいけない。それを法の枠の中で国民に訴えるには無理がある。そのような判断になると思う。

「2007 年、李明博政権選択は真に大きな誤りであった」

□ 6.15 南側委員会が実際にできるか疑問だが？

■実務接触も会議も無条件不許可だ。それを認めなければいけないのか。認めることはできない。そのような抵抗が起きる前に政府が何か先に措置を取らなければならない。私たちは歴史的な経験を多くした。それこそ無理強いしては挫折するざまを見た。もちろん、6.15 南側委員会は連合体なので全体的合意が条件である。合意のない行為は組織の瓦解につながるため慎重だ。討論、深い対話、理解と信頼を積み重ねるために一層努力するつもりだ。

□長らく在野に身を置き、また盧武鉉政権当時、政府で民主平和統一諮問会議の首席副議長を務めたが、6.15 南側常任代表を務めながらの個人的感想は？

■こういう時代がくるとは思ってもいなかった。南北基本合意書、6.15 共同宣言、10.4 宣言をすべて無視したとしても、ここまでするとは思いもしなかった。以前、南北問題に関連して政府の中でかなり多くの仕事をかなり多くの国民と接触して講演も多く行った

が、それらはいったい何であったのか、過去 10 年間の歴史をどのように評価し、いま直面している現実をどのように消化すればよいのか、とても空しい。それと共に政権が重要ではないと考えたことはないが、政権は本当に慎重に選択しなければいけない。2007 年のわが国民の李明博政権選択は真に大きな誤りであった。歴史の発展をある程度でも支えて行く政権を選択すべきであって、これほどまで逆行する政権を選択してはいけない。個人的には虚無感のようなものもあるが、長い歴史を見れば決してそのように歴史が流れはしない。人権運動をする時も本当に苦しかったし、民主化運動する時もそうであったが、歴史は人権の保障と民主化に向かった。統一運動も初期は大変だったが、過去 10 年間の政権時代に歴史はそのように流れた。今は困難であるがにもかかわらず、歴史は前進する。万が一の政権が保守政権になっても、歴史は流れると確信する。

平和希求し、経済発展優先で進む朝鮮

日本には過去清算・制裁撤廃を要求

矢内真理子 同志社大学院社会学研究科博士前期課程

進歩と改革 7 月号掲載

【最新平壤事情、日本で伝えられる「北朝鮮」像のウソ】私が日本で見たことがある朝鮮の映像は「ミサイル」発射、軍事パレード、サングラス姿で指導する金正日総書記、朝鮮中央テレビのアナウンサー、人がほとんどいない街中などの映像である。

私が 4 月 30 日に首都の平壤市内に入ったとき、日が落ちる頃だったが、家路に着く人々で町は賑わっていた。路面電車やバスにはすし詰めになって労働者、学生らが乗っている。

「人が多い…」間抜けな感想だが、それが私の平壤に対する第一印象だった。それと同時に「どんな人が住んでいるか想像できないこと」が一番恐ろしいということに気づいた。現在、日本政府は「攻めてくるかも」と朝鮮を敵視しているが、日本のテレビで流されている映像を見る限りでは、一般市民の生活を知ることは難しい。それこそが「敵視」を助長する原因の一つではないだろうか。我々は無意識のうちに「ほとんど人がいない」「みんな党や政府に洗脳されている」と思い込み、無機質な映像ばかりを見ることで「日本へ攻撃してくるかもしれない」という思い込みをエスカレートさせていく。それが「朝鮮に対して非礼なことを平気でする日本」に繋がっているように思えてならない。平壤に暮らす人々は、我々と同じように学校に通い、働き、時には歌を歌い、酒を飲む。私の頭の中は、日本で得た「不気味な朝鮮」の情報でいっぱいだったが滞在するうちに、それらの情報はかなりバイアスがかかったものだったということを実体験した。

【朝鮮初の原子力発電所計画】「革命記念博物館」では、朝鮮のインフラや、軽・重工業技術の展示がされていた。その中でも、東京電力福島第一原子力発電所の事件があったので、電力事情に関する展示に注目した。朝鮮国内の発電所を網羅したパネルには、朝鮮国内の発電は主に水力発電でまかなわれており、ほかにも火力発電、風力発電などがあると説明があった。その中で一ヵ所だけ軽水炉型の原子力発電所の建設予定地がある。「琴湖（クムホ）」と呼ばれる地域で、黄色で表示されている。共同通信が 2010 年 11 月 13 日に配信した記事「北朝鮮が実験用軽水炉建設、訪朝の米研究者明かす、日米韓への揺さぶりか」によると、「寧辺から離れた琴湖地域で朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）により建屋建設などがすすめられていたが、ブッシュ前米政権時代に事実上、放棄された」と報じられた。KEDO が廃止されたのは 2006 年で現在どの程度まで建設が進んでいるのかは明らかになっていない。6 カ国協議で最終合意が実現すれば 5 カ国が原発建設を支援することになっている。工場の機械化についても説明があった。朝鮮国内では「CNC」と呼ばれている。コンピュー

ター制御のことで、朝鮮国内では技術進歩の象徴である。工場などでも CNC 化が進んでおり、生産の安定化、スピードアップ、品質を向上させるのに役立っているという。

他にも石炭から作った繊維を見ることができた。これは、材料調達から生産の方法、技術開発まですべて朝鮮の独力で行ったので「チュチェ（主体）繊維」と名づけられたという。

【進む発展と暮らし】以前は建設が途中で中止となっていた柳京ホテルは、現在はエジプト企業との合弁で作業が進められている。完成間近だという。地上 205 階、地下 5 階建て。

エジプトの通信会社「オラスコム」社と提携し、携帯電話の普及も進んでおり、若者が携帯を使う姿も度々見かけた。「親が持っていないなくても、子どもが持ちたいと言ったらつい買い与えてしまうものです」と話す。車の往来も激しく、人々、特に女性の服の色は明るく、街は活気に満ち溢れていた。

日本では「朝鮮はたびたび停電する」といわれていたが、滞在中、一回もなかった。反対に、日本に帰国した時、エレベーターやエスカレーターを止め、照明を半分しかつけていない羽田空港を見て暗澹たる気分させられた。「電気がついていないのがカッコ悪い」ということではなく、「東電の脅し」的節電に対してである。むしろ、どこでも、常に明るくなければならないという日本の感覚こそが世界基準で見れば外れているのではなかろうか。冒頭でも述べたが、今年の朝鮮の目標は「強盛大国」だ。街のいたるところで、「人民生活向上と強盛大国建設で決定的転換を起こそう！」など、力強いスローガンが看板に躍っていた。

【東日本大震災と朝鮮、被災した日本人を心配する朝鮮市民】東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故について、平壤の一般市民はどれだけ知っているのだろうかと思い、市内の一般市民に聞いてみた。すると「悲惨な事態に心を痛めています。テレビで津波が街を破壊する様子を繰り返し見ました」「早く生活が元に戻るといいですね。復興を祈ります」などという声が挙がった。日本との文化交流を進める朝鮮対外文化連絡会の黄虎男日本局長は「正直な話、今回の震災はとても心配でした。その地域に私たちの友人がいっぱいいたからです。彼らの安否を気遣いました。朝日の人民の間には、変わらない気持ちがあります」と語った。日本で暮らす人々を案じる声ばかりだった。博物館のガイドを務める女性は「地震以降、日本からの観光客が激減していて寂しい。前に来てくれた皆さんはご無事でしょうか」と心配した。

【日朝関係のこれから】朝鮮外務省アジア局日本課の魯正秀研究員は 5 月 30 日に私たちの取材に応じ、日朝関係に関して次のように述べた。

「共和国では今、経済の近代化が進められている。今年のおもな目標は人民の生活の向上で、こうした私たちの闘いは平和な雰囲気が必要といている。日本側は、過去の清算や関係改善を夢にも思っていない。そればかりか政治的な目標に利用している。日本側が換骨奪胎しない限り、関係改善は難しい。これまでの共和国に対する敵視政策をやめ、これまでの体制を根本から改めなければならないということだ。どの政党が政権を取るかに関係なく、関係改善のためには新しい観点や立場から取り組まなければならない。私たちが日本に要求していることは明白だ。まず、日本側が朝鮮人民に犯した非人間的な犯罪を至急謝罪し、納得できるよう賠償すべき。そして共和国に対する敵視政策を真面目に反省し、即時撤回すべきだ。歴史の歪曲や軍事大国化をやめるべきだ。朝日首脳会談から今年で 9 年目になる。…平壤宣言の基本精神の重さを肝に銘じることが基本だと思う。私たちは平壤宣言を徹底的に履行する立場にある。…我々の立場は、北南対話であれ、6 者会談であれ、前提条件なしに対座して、関心時の問題を討議する意思があるということだ。必要があれば二筋の会談が同時に行われることも可能で、6 者会談が先に行われても、その枠内で北南対話、双方の対話ができるだろう。（6 者会談について）米国と南側は、自分たちの要求が受け入れられなければ、（朝鮮側に）真心がないと評価する。こうした共和国側が先に動かなければならないという論理は、同時行動原則に反し、誰にも通じない」と語った。そして最後に「日本の政策が悪

いのですね。日本人が悪いのではなく。そういうことを分かっています」と言った。日本は朝鮮に対する経済制裁をやめ、過去について謝罪し、国交正常化にむけて話し合いを進めるべきだ。制裁を継続しながらの国交正常化はありえないからだ。

金正日総書記は5月20日から、黒竜江省、吉林省、江蘇省など中国各地を訪問し、太陽電池メーカーや電子機器の工場などを視察した。北京では胡錦濤国家主席との首脳会談に臨んだ。過去一年間のうち、三度目の訪中となる。滞在は約一週間に及んだ。朝鮮は中国との連携を強めている。中国・朝鮮と日本・韓国・米国の関係が、日朝国交正常化によって改善されることで、ひいては東アジアにおける一番の緊張材料である朝鮮半島の南北統一が促進される可能性もある。また、朝鮮の非核化が叫ばれて久しいが、南北が統一されることが、朝鮮半島全体の非核化にも繋がっていく。このまま朝鮮に非人道的な振る舞いを続ければ、米国としか関わろうとしない日本は、ますます世界から孤立していつてしまうだろう。「日本の製品は安全です」というキャンペーンよりも、今こそ真の平和に向けてのアクションを起こすべきときだ。

★ トピックス

◆ 日朝正常化議連が再始動 (時事通信 6月15日)

超党派の「日朝国交正常化推進議員連盟」が15日午前、衆院議員会館で総会を開き、会長に、山崎拓前自民党副総裁に代えて衛藤征士郎衆院副議長を充てることを決めた。山崎氏が2009年の衆院選で落選した後、休眠状態となっていた活動を再開する。拉致問題で進展がない中、北朝鮮の金正日労働党総書記が先月の中国訪問で6カ国協議に意欲を示したことなどを踏まえ、日朝の直接対話再開に向けて政府への働き掛けを強める方針。総会には、民主、自民、公明、共産、社民、国民新の各党から約15人が参加した。

◆ 朝鮮学校の無償化訴え東京と大阪で集会 (6月23日)

去る23日、朝鮮学校への高校無償化制度の即時適用を求める集会が東京と大阪で行われた。この日の集会は日本の市民団体、平和フォーラム等が主催したが、東京の集会には全国から約1,000人、大阪の集会には近畿地方から約880人の労働組合員、日朝友好団体、朝鮮学校保護者と生徒などが参加し、中断している審査手続きの再開と即時適用を求め最後までたたかいぬくことを確認した。

東京集会で挨拶をした「フォーラム平和・人権・環境」の藤本泰成事務局長は「日本社会が一番大事にしなければならないことは、一人ひとりの思い、命に寄り添っていくことだ。そういう社会を目指すためには、『無償化』制度から朝鮮学校を外すことがあってはならない」と熱く語った。

近畿集会では主催団体のひとつである「日朝市民連帯・大阪」の有元幹明さんが「震災後、はじめて行われた『無償化』集会に、近畿地方からこれほどたくさんの人々が参加した意義は大きい。こうした集会を引き続き行うことで、全国各地の運動がひとつの大きな力になるよう世論を喚起していきたい」と話した。

◆ 朝鮮学校:審査停止で訴訟準備、授業料無償化適用めぐり(毎日新聞 6月24日)

全国朝鮮高級学校校長会の慎吉雄(シン・ギルン)会長は23日、文部科学省が朝鮮学校への授業料無償化適用の審査を停止して生徒が不利益を受けたとして、国を相手にした損害賠償訴訟を準備していることを明らかにした。慎会長は東日本大震災後に初めて同省に審査再開を要望。遅くとも7月までに審査が再開されなければ提訴に踏み切るという。

朝鮮学校への適用審査は、北朝鮮による韓国砲撃を受けて昨年 11 月に停止され、3 月の震災もあり同省の事務手続きが進んでいない。全国の朝鮮高級学校 100 校で今春は約 700 人が卒業し、今年度は約 1,700 人が在籍している。慎会長は「解決できない時には近々法廷闘争になると思う」と述べる一方、「日本にいる高校生がみんな受給しているのに（朝鮮学校の）生徒に傷は負わせられない。日本の良心を見せていただきたい」と審査再開を訴えた。

◆ 朝中が黄金坪経済地帯と羅津・先鋒経済貿易地帯の開発プロジェクト着工式

6 月 8 日と 9 日に朝鮮と中国の西と東の国境地帯に設けられた黄金坪経済地帯と羅津・先鋒経済貿易地帯の開発プロジェクトの着工式がそれぞれ大々的に行われた。

6 月 7～9 日に先立って朝中「開発合作連合指導委員会」の第 2 回会議が行われたがここで両国は「両政府の指導の下、企業が主となり、市場原理で運営され、相互利益を追求する」との 4 大原則に合意し、「両者の長所を十分に生かしながら両経済地帯を朝中経済協力のモデル・ケースにすると同時に、世界各国とも経済協力が出来る空間に育成していくことを強調した」という。

中国の経済週刊紙・経済観察報よれば、投資で損失が出た場合、中国政府が損失額の 80% を補填する仕組みになっており、中国政府の手厚い保護もあって中国や香港の複数の有力企業が黄金坪開発への参加に意欲を見せているという。

★ ドキュメント

◇ 朝鮮民主主義人民共和国政府の談話・声明

●朝鮮国防委員会スポークスマン声明(5 月 30 日):「李明博一味をこれ以上相手にしないであらう」

民族共同の獲得物である 6.15 共同宣言と 10.4 宣言を破棄することから始まった李明博一味の反共和国対決策動は、執権後半期に入ってからさらに悪辣になっている。最近では、トウロウの斧というように、わが革命の首脳部とわれわれの神聖な社会主義体制に対する非難の度合いを引き続き強めて悪事だけを選んで働いている。もともとないものを捏造して悪政は美化し、それで民族の和解と団結を破壊し、平和・繁栄の道に人為的な障壁を積み上げているのがほかならぬ李明博一味である。今も、あえて誰その核放棄や的外れな「謝罪」を口癖のように言い散らし、「ベルリン提案」のいわゆる「真意」について差し出がましく騒ぎ立てており、捏造された事件と正々堂々たるわれわれの自衛的措置にかこつけて北南関係を收拾できない破局へ追い込んでいく。その上、前提条件なしに幅広い対話と協議で和解と協力、平和と統一の新たな転機をもたらそうというわれわれの雅量のある提案に対して悪態をついて時間を引き延ばせば、自分らが望む「急変事態」が訪れるかのように内外世論をミスリードしている。最近、日本に渡った李明博逆徒は、またしてもわれわれの核問題に言い掛かりをつけてせんえつな妄言もためらわなかったし、ソウルに戻ってはあえて誰それを「愛情」を持って何とかするという生意気なことまで言い散らしている。

こうした中、南朝鮮軍部好戦狂は去る 5 月 23 日から京畿道楊州市、仁川市のきな臭い射撃場に大勢の南朝鮮軍を駆り出して銃弾・砲弾をむやみに撃ちまくる狂気を振りまいている。一方、南朝鮮の反共和国保守勢力は、全斗煥軍部ファッショ狂信者によって行われた 5.18 光州大虐殺蛮行まで「北の特殊部隊の仕業」であったと国際舞台に持ち出す醜態を演じた。

李明博一味の反共和国対決策動が極限に至っているこの時刻、朝鮮国防委員会は次のような原則的な立場を内外に宣明する。

1. わが軍隊と人民は李明博一味をこれ以上相手にしない。李明博一味は、既に同族として生きることをやめて久しい反共和国対決狂信者の群れであり、政治も、軍事も分からない無知のごろつき集団である。自分なりの判断通りに、自ら滅びる時までいわゆる「原則論」を固守し、「待つ戦略」に従って「急変事態」を存分に待ってみよというのがわれわれの立場である。時間がないのはわれわれではなく、李明博一味であらう。

2. 李明博一味の反共和国対決策動に終止符を打つための民族挙げての全面攻勢に進入する。

わが軍隊と人民の全面攻勢は無慈悲な攻勢である。それはまた、国内外の全民族が立ち上がることになる攻勢であって、李明博一味が政治の舞台から葬り去られる時まで続くであろう。大勢は、真の民主化の嵐が李明博一味の本拠地で巻き起こるということを示すであろう。

3. わが軍隊と人民は当面、李明博一味の対決騒動に立ち向かうための実際の行動措置を講じることになる。李明博一味が対話と接触を拒否し、和解と協力に遮断棒を下ろした以上、わが軍隊は 1 次として、北南通行を軍事的に保障するために維持してきた東海地区の北南軍部通信を遮断し、金剛山地区の通信連絡所を閉鎖することになる。愚かな期待を抱いて引き続きしがみついている李明博一味の反共和国心理戦に対しては既に警告した通り、任意の時刻に、任意の対象を目標に不意の物理的対応を伴わせることになる。

李明博一味は、北南関係を最悪の事態へ追い込んだ責任を絶対に逃れられないし、民族に犯した罪悪によって歴史の峻厳な審判を免れないであろう。

●6.15 共同宣言実践民族共同委員会報道文(6 月 1 日):「6 月 15 日に開城で平和統一民族大会」

北と南、海外のわが同胞は、近く歴史的な 6.15 共同宣言発表 11 周年を迎えることになる。振り返れば、6.15 共同宣言の発表は不信と対決の歴史を和解と団結、平和と統一の新たな歴史に変えた一大出来事であった。しかし、こんにち、北と南の間には往来と接触、対話と会合の道がふさがり、同族対決と戦雲が重く渦巻いており、国と民族の運命が重大に脅かされている。

6.15 共同宣言実践北側委員会・南側委員会・海外側委員会は、朝鮮半島につくり出されたこんにちの重大な事態に大きな憂慮を表し、全同胞の志向と要求に即して北南共同宣言を徹底的に履行していくため次のような報道文を発表する。

1. 6.15 共同宣言実践北・南・海外側委員会は、歴史的な北南共同宣言発表 11 周年を迎えて共同宣言の精神にのっとり民族の和合と国の平和と統一に積極的に寄与する方向で 6 月 15 日、開城(工業地区含む)で北側 100 人、南側 100 人、海外側 60 余人の参加の下、6.15 共同宣言発表 11 周年記念平和統一民族大会(6.15 平和統一民族大会)を盛大に開催することにした。6.15 平和統一民族大会では、開幕式と討論会、部門別の対面、芸術公演、開城地区歴史遺跡の参観、閉幕式など多彩な行事を催すことにした。

2. 6.15 共同宣言実践北・南・海外側委員会は、6.15 共同宣言発表 11 周年を契機に北と南、海外の各地域でも多様な記念行事を催すことにした。

●朝鮮国防委員会スポークスマン、朝鮮中央通信記者の質問に回答(6 月 1 日):「南朝鮮が北京秘密接触で『首脳会談』提案」

李明博一味は元来、ないものもつくり上げ、やったこともしていないと言い張る捏造の名手、民族に立てた約束も弊履のように捨て去る無頼漢である。チョンアン(天安)沈没事件と延坪島砲撃戦がそれをよく示している。北京秘密接触でわれわれに李明博逆徒のいわゆる「ベルリン提案」の「真意」を説明したというのも真っ赤なうそである。李明博一味が青瓦台スポークスマンなる者を押し立てて北京秘密接触の状況を捏造して先に公開し、あれこれとたわ言を流している以上、われわれも事実をありのまま明らかにせざるを得ない。

北南関係を破局へと追い込んだ責任を逃れられなくなった李明博一味は、それによって執権末期の危機がさらに深まりかねないことを意識したことから、今年の 4 月に入って「チョンアン沈没事件と延坪島砲撃事件をこれ以上取り上げない」ので、是非『首脳会談』のための秘密接触を行おう」と重ねて懇請してきた。そして、李明博の「対北政策」を北が「誤解」をしていてそうであるが、実のところ北南関係改善のためのものとくどくどと弁解した。

しかし、5 月 9 日から秘密接触の場に現れた金千植南朝鮮統一部政策室長、ホン・チャンファ情報院局長、金泰孝青瓦台秘書室対外戦略秘書官らは、われわれと交わした当初の約束を破り、チョンアン沈没事件と延坪島砲撃事件が南北関係改善のために「賢く越えなければならない山」であるとし、われわれから「謝罪」を受け取ろうと術策を弄し始めた。わが方がわれわれと無関係の事件と正々堂々たる自衛的措置に対して「謝罪」するということ自体が話にもならないと突っぱねると、「是非北側から見れば『謝罪』ではなく、南側から見れば『謝罪』のように見える折衷案」でも作って世界に公表しようとわが方に「どうか少し譲歩してほしい」と哀願した。わが方が不当な「謝罪」を前提にした最高位級会談問題は論議する必要すらない、直ちにソウルに帰れと言うと、彼らは李明博の任期がいくらか残っていないこと、現当局には時間がないこと、南北関係は進歩勢力よりも保守勢力と手を取って推し進める方がより有利であるとし、何としても接触を続けていこうと

試みた。そして、自分らは既に「首脳会談」開催に関する日程を全て立てているとし、両事件に関する問題が妥結すれば、5月下旬ごろに「首脳会談」のための高官級会談を開いて合意事項を宣布し、6月下旬ごろには第1回「首脳会談」を板門店で、第2回「首脳会談」はその2カ月後に平壤で、第3回「首脳会談」は来年3月の核安全保障サミットの期間に開催することを予定しているので、是非苦しい事情を酌んでほしいと哀願した。

これに対してわが方が今のように南側で「先核放棄」と両事件に対する「謝罪」を引き続き騒いで反共和国敵視政策に固執する限り、最高位級会談の開催はあり得ないと断固たる立場を表明するや、「最小限、両事件に対して『遺憾』の意だけでも表してほしい。マレーシアで再び会ってこの問題を締めくくろう。そして『首脳会談』の開催を早く進めよう」とし、金が入った封筒まで臆面もなく差し出して誰それを誘惑しようとたくらんだが、恥をかいた。南朝鮮は、「北と違って南は複雑である。秘密接触でのやりとりが南で知られるとまずいので、必ず秘密にしてほしい」とし、「李明博『大統領』の直接の指示によってこの秘密接触を主管する玄仁沢統一部長官、情報院長、大統領秘書室長、そして現地に派遣された者以外には知る者が居ないので、北側も接触に関する内容を必ず秘密にしてほしい」と重ねて懇請した。

まさに、このような連中が李明博逆徒のいわゆる「ベルリン提案」の「当為性」を宣伝する目的の下、北京秘密接触の状況を捏造して先に世論に公開したのである。青瓦台スポークスマンが去る5月19日を前後して李明博逆徒の「ベルリン提案」の「真意」を北に伝えたとした秘密接触の全貌はまさにこうである。

李明博一味が心から北南関係を改善する意志があるなら、そもそもいわゆる「ベルリン提案」のような悪態をついてはならなかったし、非公開接触の事実を歪曲して信義もなく公開する芝居を打ってはならなかったであろう。諸般の事実は、李明博一味が執権末期に入って北南関係を破綻させた責任を免れようとどれほどあがいているのかをそのまま示している。

しかし、逆徒がいくらあがいても執権3年間に犯した反民族的で反統一的な罪惡を逃れられない。

われわれは、朝鮮半島の平和と統一、安定を保障するためにできる限りのあらゆる努力を尽くすが、政治的な下心のために表裏の異なるつまらない行動を取る李明博一味をこれ以上相手にしないであろう。

●朝鮮中央通信論評(6月1日):「政治小者特有のずる賢い手法」

日本政府が反共和国拉致騒動の度合いを高めて無分別に振る舞っている。「拉致問題」を全ての学校の内容に含めることを決定し、最高当局者があちこちに行って「拉致問題」解決のための協力を哀願している。その主張はすなわち、日本としては「拉致問題」以上の人権問題がなく、朝日関係でもこれが根本問題であるということである。実に荒唐無稽である。卑劣で浅い知恵で不純な政治目的を達成しようとする政治小者の日本特有のずる賢い手法である。

日本は道徳的にも法律的にも、われわれに「拉致問題」、人権問題を提起する何の名分もない世界最大の人権犯罪国、戦犯国である。20万人の女性を含む数多くの朝鮮人を強制連行、拉致して奴隷生活を強要した過去の野蛮な奴隷制犯罪を日本は世紀が替わったこんにちまで清算していない。これは、「戦争犯罪および人道に反する罪に対する時効不適用に関する条約」に基づいて無条件懲罰されなければならない特大型の犯罪である。

このような日本が次代に反共和国敵対感を鼓吹する「拉致問題」に関する教育を実施するのには、彼らなりの政治目的と打算が潜んでいる。その目的は、過去に自分らが働いた反人倫的犯罪を覆い隠し、その清算を回避し、朝日の間の対決を激化させて政権延命を実現しようとするものである。

日本の歴代の執権者はこうであった。安倍(晋三)などによる自民党政権時代にも、現民主党政権時代にも、変わらずこうした稚拙な手法で日本を過去の犯罪に対する道徳的責任を逃れた正常な国家にしようとし、国内での政治危機を免れようとしている。

朝鮮半島の平和と非核化のプロセスを進めるべきであるという国際社会の要求がさらに高まっているこんにち、日本当局は抜け目なくそれを自分らの常とう的な「拉致」謀略劇に利用しようと打算した。関係国の間では、以前から日本が「6者会談再開のための事前措置」に「拉致問題」までこっそり加えようとする下心をあらわにしているという警戒の声が上がっている。

しかし、日本が「拉致問題」で漁夫の利を追求するには、その色があまりにもあせている。日本当局が「拉致問題」の基本として掲げている横田めぐみさんの問題だけを見ても、それが死んだ人を生き返らせろというような強弁であることが既に明らかになった状態である。既報のように、2006年8月、横田めぐみさんの問題に深く関与した南朝鮮の反共和国団体の代表なる者までも、日本政府はめぐみさんが死亡した事実をよく

知っていながらも「拉致問題」を「対北圧力の手段に利用するなど、政治的に活用」していると打ち明けた。日本でも 2009 年 5 月、「テレビ朝日」がめぐみさんは生きていないということについて外務省が知っていると暴露して内外に波紋を起こした。

日本がたくらむ謀略と手法がそれほど俗っぽくて低劣であるので、国際社会から政治小者としか扱われなないのである。彼らがこのような境遇を逃れようとするなら術策に執着するのではなく、誤った過去を誠実に反省して正しく清算しなければならない。朝日関係でも、まさにこれが根本的で優先的な問題である。

●朝鮮人民軍総参謀部スポークスマン声明(6月3日):「最高尊厳標的射撃で軍事的報復行動に入る」

最近、李明博一味は南朝鮮軍無頼漢を駆り出して京畿道の楊州市と仁川市をはじめ南朝鮮各地の訓練場にわれわれの社会主義体制を中傷する標語と宣伝物を掛けて騒動を起こした揚げ句、あえてわれわれの最高の尊厳に抵触する標的まで作って射撃を行う永遠に許し難い狂気を振りまいている。これは、人間としては到底想像できないヒステリーの発作であり、全民族を驚愕させる同族対決の極みである。昨年、わが共和国旗を標的に定めて砲撃を行い大きな物議を醸した李明博一味が最近になって働いているこの特大型挑発行為は、何によっても許されない大逆罪になる。過去、南には同族対決に悪名をはせた「維新」独裁者も居たし、民族を身震いさせた軍部ファッショ殺人狂も居た。しかし、彼らもわれわれの最高の尊厳にだけはあえて触れることができなかった。それは、共和国の最高の尊厳を民族共通の尊厳、名誉と見なし、それを守るためにたとえ空が崩れ落ち、地球が壊れるとしてもこぞって立ち上がるのがわが民族であるので、それに挑戦する場合、北南関係をはじめ全てのものが総破綻することをあまりにもよく知っていたからである。

ところが、李明博一味は歴代ファッショ狂も顔を赤らめる同族対決狂信者、初歩的な人倫道徳も知らないならず者の群れとしての本色をためらいなくさらけ出した。現事態に接した南朝鮮の各界でも、人間として生きることをやめて久しい李明博一味の極悪非道な特大型挑発行為について北南関係史にかつてない「分別のない挑戦行為」、全同胞の抗拒に直面する「未曾有の政治的挑発」と糾弾している。慌てた李明博一味は素知らぬ顔をしており、南朝鮮軍部好戦狂は「個別の行動事例」であるかのように世論を流す三文芝居を演じている。しかし、いかなる場合にも既に犯した罪を絶対に逃れられない。

朝鮮人民軍総参謀部は、李明博一味が犯した特大型挑発行為に対するわが軍隊と人民の込み上げる憤怒と百倍、千倍の報復を加える一念を反映して、次のような立場を明らかにする。

1. 南朝鮮当局は、最悪の反民族的犯罪を働いた主謀者を即時厳罰に処す措置を講じなければならない。われわれの最高の尊厳に毛の先ほども触れる者はこの地で生きる場所がない。南朝鮮当局は、権力の座に就くや否や反共和国敵対感鼓吹を主導してきた李明博逆徒と、「安保観」「主敵観」の強化を南朝鮮軍部隊に下達し、その執行の一環として今回の特大型犯罪を働いた金寛鎮南朝鮮国防部長官をはじめ軍事無頼漢を民族共同の名で処罰する即時の措置を講じなければならない。われわれは今回の特大型犯罪と関連した南朝鮮当局の態度を鋭く注視するであろう。

2. 南朝鮮当局は、特大型挑発行為に対して全民族の前で正式に謝罪し、徹底した再発防止を公式に保証しなければならない。今回の大逆罪に対しては、いかなる弁解や空言もあり得ない。激怒したわが軍隊と人民の報復心が天を突いているこんにち、南朝鮮当局は李明博逆徒と南朝鮮軍無頼漢が犯した悪行について民族に謝罪し、再発防止のための責任ある措置を講じなければならない。

3. 今この時刻から朝鮮人民軍陸海空軍および労農赤衛軍部隊は、李明博の群れを一撃で掃討するための実際的で全面的な軍事的報復行動に進入することになるであろう。同族対決に狂った李明博一味とはそもそも対座する必要がなく、専ら銃でけりをつけなければならないというのが、われわれが得た最終結論である。

李明博一味の醜悪な正体は既にことごとくさらけ出された。朝鮮人民軍陸海空軍および労農赤衛軍の全ての部隊は、南朝鮮当局が今回の事件の主謀者の処罰と謝罪措置を取る時まで、実際的で全面的な軍事的報復対応の度合いを段階的に強めることになるであろう。世界は、国と民族の最高の尊厳を守るためのわれわれ千万軍民の報復対応がどんなものであり、天の恐ろしさも知らずにむやみに出しゃばる李明博逆徒と南朝鮮軍部好戦狂の運命がどうなるのかをはっきりと見ることになるであろう。

●朝鮮中央通信論評(6月4日):「代を継いで民族の恨みを買う反人倫的罪」

南朝鮮占領米軍が、自分らの基地とその周辺に枯れ葉剤をはじめ有毒性化学物質を投棄した数十年前

の事実が最近、続けてあらわになっている。米国が、人類の排撃を受けている枯れ葉剤をベトナム戦争だけでなく、朝鮮半島でも多量に使用し、捨てたという資料に接して国際社会は驚きを表している。人体と生態環境を無残に破壊し、人々に代を継いで恨みの傷を残す重大な有毒性物質である枯れ葉剤使用の残酷な悪影響については、国際社会が既にベトナム戦争を通じてよく知っている。米国は、先のベトナム戦争で枯れ葉剤を飛行機で散布して多くの人命被害を出し、多くの地域の生態環境を甚だしく破壊した。結果、それらの地域は数十年がたったこんにちも、動植物が全く生息できない荒れ地に、各種の疾病と死が発生する恨みの地帯になっている。枯れ葉剤にいったん接触した人はその程度によって即死したり、そうでない場合、がんや神経まひのような悪性疾病によって苦痛を強いられて死に、その悪影響は次代にまで及ぶことになる。現実的に、ベトナム侵略戦の戦場に連れて行かれた南朝鮮の青壮年が枯れ葉剤によって死んでいるし、その後遺症によって数十年がたったこんにちまで精神疾患、神経系統疾患、がん、脊椎障害など各種の疾病で苦しんでおり、彼らの次代も奇形児、障害者になっている。

南朝鮮での米国の枯れ葉剤使用を米軍基地内で起きた偶発的な現象とは見ることはできない。米国防総省によって作成されたある報告書には、1952年当時、米国が朝鮮戦争に使用するため枯れ葉剤とその散布手段を開発し始めたことが明らかにされている。その時と言えば、米国がペストと天然痘、コレラ菌を入れた多くの細菌爆弾を製造して共和国北半部地域に大量に投下して細菌戦に頼っていた時期である。まさしくこうした時に米国は、朝鮮戦争に使用するために枯れ葉剤の開発、生産に必死に寄りすがっていた。去る 1960年代末、米軍は軍事境界線非武装地帯に南朝鮮軍を動員して枯れ葉剤を散布した。その時に駆り出された兵士のうち数千人が死に、地域の住民を含め数万人が不治の病にかかっていまだに苦痛をなめている。

米軍は、悪名高い多量の毒物を南朝鮮の至る所に埋めた。これにより、南朝鮮の多くの地域がひどく汚染され、地下水まで影響を受けて農作物の栽培と飲料水の利用に重大な悪影響を及ぼしている。米軍が汚染させた地下水を飲んだことで南朝鮮の住民 1 万人当たり 1 人ががんにかかり、米軍の送油管が敷設された地域の地下水を飲んだ住民は平均 3 世帯当たり 1 人ががんなど各種の疾病にかかって無念の死を遂げたという。

南朝鮮のどの地域にも枯れ葉剤被害者が居る。これは、わが民族を全滅させ、領土を荒廃させるために働いた米国の反人倫的犯罪行為を示すもう一つの証拠である。朝鮮民族の生のよりどころを汚し、民族の生存に代を継いで後患を及ぼす米国の破廉恥な傲慢は、絶対に許されてはならない。

●朝鮮最高人民会議常任委員会政令第 1693 号(6 月 6 日):「黄金坪・威化島経済地帯設置」

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は、伝統的な朝中友好をさらに強化し、対外経済関係を拡大、発展させるため次のように決定する。

1. 朝鮮民主主義人民共和国黄金坪・威化島経済地帯を設置する。
2. 朝鮮民主主義人民共和国黄金坪・威化島経済地帯には平安北道の薪島郡黄金坪里、新義州市上端里、下端里、多智里、義州郡西湖里が属する。
3. 黄金坪・威化島経済地帯には朝鮮民主主義人民共和国の主権が行使される。
4. 朝鮮民主主義人民共和国黄金坪・威化島経済地帯の開発は黄金坪地区から行う。
5. 朝鮮民主主義人民共和国内閣と当該機関はこの政令を執行するための実務的な対策を立てる。

●朝鮮国防委員会政策局代表、朝鮮中央通信記者の質問に回答(6 月 9 日):「北京秘密接触捏造なら録音記録公開」

世界に公開されたように、李明博一味が北南秘密接触に臨んだのは北南関係を全面的に破綻させた責任を逃れようとする愚かな胸算用からであった。われわれはもともと、李明博一味の体質化した同族拒否感と病的な対決本性を知って余りあったが、南側がチョンアン事件と延坪島砲撃戦を「これ以上取り上げない」との立場を表して秘密接触を行おうと何度も提案したので、この機会に北南関係を改善して自主統一と平和・繁栄の道を共に歩む意志があるなしを最終確認するのも悪くないと思い、それに応じるようになった。しかし、秘密接触の過程に表れた李明博一味の態度は、民族の和解と協力、平和と緊張緩和を願う時代の要求と同胞の念願はお構いなしで、専ら北南関係を破綻させた責任を逃れて来年度に予定される「大統領」選挙と「国会」議員選挙に有利な環境をもたらそうとする、ただ一つの悪巧みの実現にのみ執着していたということを実証した。その代表的な実例が、秘密接触の状況を捏造して先に公開したような背信行為であり、それに飽き足らず、接触過程の反民族的な言行に対して必死に回避、否認する一計を巡らしていることである。

われわれは、李明博一味の主張がどれほど荒唐無稽であるのかを具体的な事実を通じてあらためて暴こうと思う。まず、既に公になった秘密接触が、「首脳会談」開催を目的にしたものではなかったという李明博一味の言葉は完全なうそである。われわれには、金千植南朝鮮統一部政策室長が言った言葉がある。彼は、われわれと会うなり今回の秘密接触は「首脳会談」開催のために「大統領」の直接的な指示と「承認」によってもたらされたとし、その「意味」を際立たせた。そして、玄仁沢南朝鮮統一部長官が直接接触の全過程を主管しており、青瓦台にも彼が単独ルートを通じて状況報告をしていると述べた。金千植は、今回の接触は過去に「大統領」秘書室や情報院が統一部の頭越しに行っていた秘密接触とは違うということに力点を置いて強調した。そして、今回の秘密接触が李明博と玄仁沢、情報院長、「大統領」秘書室長、秘密接触に派遣された者以外は誰も知らない最高機密として扱われており、南朝鮮社会の特殊性からそれが知られればとてもまずいので、実現するまでは全ての内容を必ず秘密にしてくれと二度も三度も繰り返して懇請した。

次に、「謝罪」に関する折衝案を持ち出したことも、哀願したこともないと言い張るのは鉄面皮な弁解である。今この時刻にも、われわれは玄仁沢の指示であるとして両事件が南北関係改善のために「賢く越えなければならぬ山」と言っていたことを生々しく記憶している。接触の場で彼らは、チョンアン事件に対するいわゆる「以南情緒」なるものを口にして「謝罪」なるものを持ち出したが、われわれの即時の排撃にぶつかるや一歩退き、北側から見れば「謝罪」でなく、南側から見れば「謝罪」のように見える折衷案でも出そうとこびを売り始めた。それも通じなくなると、しまいには最小限「遺憾」の意だけでも表してくれればそれを「謝罪」と受け止めて今までの対決政策も撤回するし、「首脳会談」も早期に進められると泣き言を吐いた。われわれははっきりと言ってやった。われわれと関係のない事件、正々堂々たる自衛権行使について「謝罪」を取り付けようとする事自体がわれわれに対する侮辱であり、不純な対決企図の発露である、このような秘密接触は必要ないので直ちにソウルに帰れと言った。すると、彼らはわれわれが「どうか少し譲歩してほしい」と見苦しいほど卑屈に振る舞った。

次に、「首脳会談」を日程別に提案したことも、提案もできないと言ったのは破廉恥な強弁である。これについては、金泰孝青瓦台秘書室対外戦略秘書官がはっきり言えるであろう。われわれの原則的で理路整然たる主張の逆となる自分らの不当な固執によって、双方の間に何の合意も遂げられずに接触が決裂に向かうと、金泰孝は「首脳会談」は必ず実現されるべきである、現当局は非常に時間がないとして「大統領」の「意見」を盛り込んで作成したという日程計画なるものを示した。それがまさに、マレーシアで秘密接触をもう1度開き、それに続いて長官級会談を行った後、6月には板門店で、8月には平壤で、翌年3月にはソウルで「核安保サミット」が行われる期間に「首脳会談」を連続して行おうというスケジュールであった。それに対してわれわれは、何の合意も成されなかった現状でこのようなスケジュールが何の必要があるのかと面と向かって非難した。恐らく、金泰孝の記憶にも生々しいであろう。具体的な日付と場所まで明示した一方的な「首脳会談」のスケジュールまで出しておきながら今になって違うと言い張るからといって、果たして真実を回避できようか。

次に、金の入った封筒を差し出して恥をかいいたというのは荒唐無稽であると弁解するのも笑止である。金の入った封筒事件の主役である金泰孝青瓦台秘書室対外戦略秘書官とホン・チャンファ情報院局長に聞いてみればよいであろう。接触が決裂状態に至ると、金泰孝の指示でホン・チャンファがトランクから金の入った封筒を取り出すと、金泰孝はそれを受け取ってわれわれの手に握らそうとした。われわれが即座にたたき返すと、金泰孝は顔が真っ赤になってそわそわし、ホン・チャンファはぎこちない動作でトランクに慌ただしく金の入った封筒をしまい、われわれの代表らに別れのあいさつもろくにできなかった。李明博一味は、当初は金の入った封筒を持ち出したことがないと言い張り、今になっては秘密接触を「首脳会談」の実現に導くための「代償性の支払い」というよりは接触を主催した側が費用を払うようになったことによるものであると事実を歪曲している。彼らが主張しているように、会談を主催した側が必要な費用を払うのが慣例であるなら、なぜ先の2度の秘密接触の時には出さなかった金の入った封筒を決裂が確定になった最後の秘密接触で出したのかということである。その上、われわれの大使館が寝食と移動手段を提供したことを知らないはずがない彼らが、われわれの大使館に滞在費を払おうとして金の入った封筒を用意したというのか。強弁を張ってもほどほどにしなければならぬ。金の入った封筒事件は、全ての事物・現象を硬貨の穴から見るのが習慣の李明博逆徒とその最たる手下のような低能児の拝金主義的思考が招いたもので、北南関係史にもう一つの悲話として記録されるであろう。

李明博一味が天下にまれに見る捏造の名手であることをわれわれは知らないのではない。そのわれわれが秘密接触の過程の事実をこのように具体的に列挙することになったのは、李明博一味が真実を惑わすこ

とでも飽き足らず、相次いで新しい捏造にしがみついているからである。今、李明博一味は秘密接触への関与はおろか、その進行の過程について雰囲気すら知ることでもできなかった何の関係もない金滉植南朝鮮国務総理を通じてあれこれとでたらめを言わす一方、今回の接触を主管した玄仁沢南朝鮮統一部長官は公式の場で悪質首謀者の正体を隠して事実を歪曲しようと脂汗を流している。一方、秘密接触の参席者を外部と徹底的に隔離してあらゆる関わりを全面遮断しており、この接触の最高首謀者である李明博逆徒は「現時点で『大統領』の言葉がさらなる強震や津波を招く恐れがある」ということから、一切口をつぐむことで今回の事件のより大きな影響を未然に防止しようとしている。

われわれは、今回の秘密接触の内容と真実を知りたい人々に言う。今回の接触を指示し、「承認」した李明博に直接聞いてみよ。そうすれば全てのことが分かるであろう。そして、背後で接触の全過程を主管した玄仁沢に問い詰めてみよ。そうすれば一部始終が分かるであろう。秘密接触の参席者である金泰孝、金千植、ホン・チャンファに事実かどうかについて具体的に問う方がよからう。そうすれば全ての内容がより明白になるであろう。

もし、彼ら皆があくまでも真実を明かすことを拒否し、同族欺瞞と謀略捏造にしがみついたら、われわれは不可避に接触の全過程に対する録音記録を全世界に公開せざるを得なくなるであろう。われわれが取ることこれらの措置は、北南関係がわが民族共同の重大事であり、同胞のための政治が幾人かの一味の醜い利己的目的の実現に悪用されることを許さず、政治の主人である人民大衆の利益に徹底的に服従されなければならないからである。

流れる時間は、同族対決に狂奔してきた李明博一味がどんなに表裏が異なる鉄面皮漢で、偽りと欺瞞で民族を愚弄してきた鼻持ちならない人間のくずであるのかをはっきりと分からせるであろう。李明博一味は、これ以上遅れる前に自分の口で真実を明かす方がよからう。

● 朝鮮中央通信(6月9日):「黄金坪・威化島と羅先の朝中共同開発着工式」

黄金坪・威化島経済地帯と羅先経済貿易地帯の朝中共同開発および共同管理プロジェクトの着工式が8日と9日にそれぞれ行われた。

両着工式には、朝鮮側から羅先経済貿易地帯と黄金坪・威化島経済地帯共同開発および共同管理のための朝中共同指導委員会朝鮮側委員長である張成沢国防委員会副委員長と合弁投資委員会の李洙墉委員長、平安北道党委員会の李万建責任書記、羅先市党委員会の林景万責任書記、平安北道人民委員会の崔宗健委員長、羅先市人民委員会の曹正浩委員長ら中央と平安北道、羅先市の関係者、勤労者が参加した。

中国側からは、羅先経済貿易地帯と黄金坪・威化島経済地帯共同開発および共同管理のための中朝共同指導委員会中国側委員長である陳徳銘商務相と遼寧省党委員会の王珉書記、吉林省党委員会の孫政才書記、劉洪才駐朝大使、遼寧省人民政府の陳政高省長をはじめ政府と遼寧省、吉林省の関係者、勤労者が参加した。

黄金坪・威化島経済地帯共同開発および共同管理プロジェクトの着工式では、張成沢副委員長、陳徳銘商務相、李万建責任書記、陳政高省長が祝賀演説を行った。各演説者は、金正日総書記が中国を再び訪問し、伝統的な両国の友好の年代記に新たな章を開いた歴史的な時期に、黄金坪地区に対する共同開発着工式を行うことを喜ばしく思うと述べた。また、両国が共同で開発し、管理する黄金坪・威化島経済地帯が朝中友好の新しい象徴として建設されて両国のさらなる繁栄と人民の幸福をもたらすのに寄与するであろうと強調した。そして、朝鮮と中国は、山河の連なる友好的な隣国であると述べ、共同の努力によって生まれた共同開発および共同管理プロジェクトが両国、そして東北アジアの経済発展に実質的な寄与をするよう早期に立派に建設されるものとの確信を表明した。

着工を記念して標識碑が建てられた。

羅先経済貿易地帯共同開発および共同管理プロジェクト着工式では、張成沢副委員長と陳徳銘商務相の祝賀演説に続いて林景万責任書記と孫政才書記が演説した。演説者は、羅先経済貿易地帯は豆満江を挟んで朝鮮と中国、ロシアがつながっており、朝鮮東海に面していて東北アジアと欧州、北米地域をつなぐ世界的な貿易および投資中心地になる有利な条件を持っていると強調した。また、羅先経済貿易地帯を共同で開発し、管理しようとするのは両国の党と政府の意志であり、人民の念願であることに言及した。さらに、羅先経済貿易地帯の共同開発および共同管理が成功裏に推進されれば、朝中両国だけでなく、東北アジア地域の経済発展を新たに促し、世界経済の発展にも肯定的な影響を及ぼすと述べた。そして、両国が積

極的に協力して電力問題を早急に解決し、羅津港の現代化、羅津港一元汀道路の改修を年内に終えて中継貨物輸送と観光業で転換をもたらすべきであると強調した。

続いて、羅先経済貿易地帯朝中共同開発 1 次着工プロジェクトとして羅津港一元汀道路の改修と亜太羅先セメント工場および朝鮮羅先市—中国吉林省高効率農業モデル区の着工式、羅津港經由中国国内貨物中継輸送の出港式、自家用車観光の出発式が執り行われた。

両国の関係者が羅津港一元汀道路改修着工式と羅津港經由中国国内貨物中継輸送出港式、羅先経済貿易地帯朝中共同開発および共同管理プロジェクト着工式のテープカットを行った。

亜太羅先セメント工場の着工を記念して標識碑が建てられた。

着工式が行われたことで宴会が 8 日と 9 日にそれぞれ催された。

● 朝鮮中央通信(6 月 13 日):「金正日総書記、中国共産党代表団と会見」

金正日総書記は 13 日、訪朝中の中国共産党政治局員で書記局書記の李源潮組織部長を団長とする中国共産党代表団と会見した。朝鮮労働党中央軍事委員会の金正恩副委員長、党政治局常務委員である李英鎬朝鮮人民軍総参謀長、党政治局委員である金己男、崔泰福の両書記、姜錫柱副総理、党政治局委員候補である張成沢朝鮮国防委員会副委員長、金永日、金養建の両書記が同席した。

李源潮組織部長は席上、金正日総書記に中国共産党総書記の胡錦濤国家主席からの温かいあいさつを伝え、金正日総書記と金正恩副委員長に贈り物を渡した。李源潮組織部長は、最近行われた金正日総書記の中国非公式訪問は両党、両国の団結と伝統的な友好・協力関係をより高い段階へと強化し、発展させる上で特別に重要な意義を持つとし、中国の党と政府と人民は中朝友好の強化、発展のために傾けている総書記の貢献を高く評価していると述べた。そして、両国の老世代の革命家の高貴な魂が宿る伝統的で特殊な中朝友好のバトンをしっかりとつなぎ、今回の中国訪問期間に中朝最高指導者の間に遂げられた広範な合意を誠実に履行して両国の美しい未来をもたらすことが中国の党と政府の確固不動の方針であると強調した。

金正日総書記は、両国の老世代の指導者の崇高な志と朝中人民の念願に合わせて友好・協力関係をさらに強化し、発展させようとするわが党と朝鮮政府の意志を表明した。金正日総書記は、朝中双方が多くの側面で互いに学び経験を交流すべきであると述べ、今回平壤で行われた朝鮮労働党代表団と中国共産党代表団の対話がうまくいったことについて評価した。

金正日総書記は、一行のために昼食会を催した。昼食会には、代表団団長の李源潮組織部長と王家瑞対外連絡部長、孫政才吉林省党委員会書記、劉洪才駐朝中国大使、潘立剛組織部局長、李希上海市党委員会組織部長、石泰峰江蘇省党委員会組織部長、楊燕怡対外連絡部部長補佐とその他の随員が招かれた。金正恩副委員長、李英鎬総参謀長、金己男、崔泰福の両書記、姜錫柱副総理、張成沢副委員長、金永日、金養建の両書記と関係者が昼食会に参加した。昼食会は、和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。

● 6.15 共同宣言実践民族共同委員会アピール(6 月 15 日):「6.15 精神で固く手を取り、民族の和解と団結、平和と統一の新たな局面を力強く開こう」

今日、北と南、海外の全同胞は、歴史的な 6.15 共同宣言発表 11 周年を迎えている。振り返れば、2000 年 6 月の北南共同宣言の採択は不信と対決の民族分裂史を和解と団結、平和と統一の新しい歴史に替えた一大出来事であった。6.15 共同宣言によって断ち切られていた民族の血脈が一つにつながり、各界各層の接触と往来、統一会合をはじめ離散家族・親戚の再会が実現し、民族共同の文化遺産が発掘された。

北南の間で経済協力をはじめ多面的な協力事業が幅広く行われ、軍事的緊張が緩和して平和と共同繁栄の期待が現実として近づいた。

しかし、こんにち、北と南の間には往来と接触、対話と統一会合の道がふさがり、対決と戦争の機運だけが重く渦巻いている。これは明白に、6.15 共同宣言を否定し、民族の対決を助長した結果である。とりわけ、北と南、海外の民間団体が合意し、推し進めてきた開城での 6.15 共同宣言発表 11 周年記念民族共同行事をあくまでも阻んだのは、民族の和合と平和、統一に対する公然たる否定である。民族の団結と協力交流を破壊し、対決の道を追求するこのような民族分裂行為は歴史にはっきりと記録され、必ず代価を払うことになるであろう。

6.15 共同宣言を徹底的に固守し、履行していこう。これがこんにち、わが同胞の一致した要求であり、意志

である。

6.15 共同宣言を通じてわが民族は和解と平和へ進む新しい道を開いた。戦争を防ぎ、平和を守るのは民族の安寧に関わる死活の問題である。この地で戦争が起きれば、その被害者はほかでもないわが民族自身である。戦争のない統一した祖国で、一つの民族として平和に生きていくのはわが民族の志向であり、念願である。北南共同宣言には、民族の力を信じて同族同士が互いの知恵と英知を一つに合わせて共同繁栄を成し遂げようとする民族自主の精神が具現されている。わが民族が互いに助け合い、共に未来を開拓する自主の精神は、北と南の信頼と和合の根本の土台であり、ここに平和があり、統一がある。

また、6.15 共同宣言は思想と理念、政見と信教の相違を超えてわが民族同士が力を合わせようという民族大団結の精神である。党派や所属を超越して民族共同の利益を優先させ、共同宣言の履行で心と志を同じくし、共に手を取り合って進もう。国内外の全同胞が、北南共同宣言がもたらした貴重な結実を守り、6.15 時代の平和と安定を取り戻すためにさらに奮発しよう。

6.15 共同宣言実践の道で全同胞が一つになろう。これが、6.15 共同宣言実践民族共同委員会が同胞の前でする約束であるとともに誓いである。

武力衝突へとひた走るこんにちの現実を克服する唯一の活路は、6.15 共同宣言を実践すること以外に他の道はない。6.15 共同宣言の履行にわが民族の生きる道がある。

6.15 の精神に逆行して対決と分裂を助長する一切の行為に対して、全同胞が力を合わせて断固阻止しよう。口先では対話をうんぬんし、不当な「前提条件」を持ち出して相手を倒そうとすれば、対決と戦争しか招くものがない。これは平和を願い、統一を志向する全同胞の強い抵抗に遭うであろう。

6.15 民族共同委員会は民族の和解と団結を図り、平和と自主統一を遂げる上で先頭に立つであろう。北と南の間の壁を壊し、民間団体の接触と往来、協力・交流の道を開くためにあらゆる努力を尽くしていこう。

6.15 共同宣言発表 11 周年記念民族共同の統一行事が遮断され、依然として軍事的緊張が持続しているこんにちの厳しい現実には全同胞が憤激している。

6.15 共同宣言履行の前途に重大な障害が横たわっているが、それは一時的であり、6.15 時代のとうとうたる流れは決して阻めない。

和解と団結、平和と統一に向かうわれわれの心臓の鼓動は止まらず、6.15 共同宣言の精神に対する全同胞の支持と熱望は日を追うごとにさらに強烈になっている。

国内外の全同胞の皆さん！

われわれ皆が 6.15 精神で固く手を取り合い、民族の和解と団結、平和と統一の新たな局面をさらに力強く開いていこう。6.15 共同宣言万歳！

● 祖国平和統一委員会書記局報道 973 号(6 月 20 日):『北人権法』策動に断固対応

最近、南朝鮮一味はわれわれと南朝鮮各階層をはじめ内外の世論の強い糾弾と非難にもかかわらず、極めて挑発的な「北人権法」なるものをつくり上げようと大々的に策動している。南朝鮮保守当局とハンナラ党一味は連日、党政(与党・政府間)協議だの何のと、「北人権法」の「国会」強行通過を騒ぐ一方、同族対決の悪質狂信者である南朝鮮統一部の玄仁沢長官は先頭で、「北人権法」の作成を狂ったように言い散らし、人間のくずの烏合の衆まで世論づくりの茶番劇に引っ張り出す醜態を演じている。「北人権法」と言えば、「人権」の美名の下にわれわれの社会主義制度と最高の尊厳を悪辣に中傷、冒瀆し、われわれを内部から崩壊させようとする極めて不純な政治目的を追求する反統一对決悪法であって、南朝鮮一味がこれまで何度もそれをつくり上げようと試みたが、内外の反対に遭って失敗したものである。南朝鮮一味がごみ箱に捨てられていたその汚らしいものをまたもや取り出して「国会」通過を強行しようとするのは、彼らの対決ヒステリーがさらに無分別な域に達していることを示している。

祖平統書記局は、南朝鮮保守一味の「北人権法」でつち上げ策動をわれわれの神聖な制度と尊厳に対する重大な挑戦、永遠に許し難い極悪非道な政治的挑発であると認め、これをわが軍隊と人民、全民族と共に込み上げる怒りを持って峻烈に糾弾する。「北人権法」はその性格と目的から見ても、内容から見ても悪名高い「保安法」よりも極悪な反統一的で反民族的、反人倫的な悪法である。

南朝鮮一味は犯罪的な「北人権法」を通じて、わが住民に対する誘引、拉致と反共和国心理・謀略戦をはじめ対決と謀略策動を正当化し、法律的に保障することで、荒唐無稽極まりない「急変事態」と「自由民主主義体制下の統一」妄想を実現しようと画策している。南朝鮮一味が反統一ファッショ悪法である「保安法」でも足りず、相手の制度「崩壊」を狙った「北人権法」作成に執着しているのは、彼らがどれほど同族対決に血

眼になって狂奔しているのかをあらためて全世界に告発している。

南朝鮮一味の「北人権法」作成策動は、われわれの制度、われわれの主権、われわれの尊厳に対する公式な全面否定、われわれとの体制対決を法制化するためのものであり、相手の制度を認めて尊重することに関する北南合意を完全に覆して北南関係を遮断と対決の極点にさらに追い込むための反民族的、反統一的な妄動である。南朝鮮一味が相手の制度と尊厳を否定する悪法づくりに血眼になって執着し、いわゆる「対話」だの、「誠意」だのと言うことこそ、破廉恥極まりない。

南朝鮮の策動は、内外の政策の総破綻と反人民的悪政、北南関係破局によって極度の窮地に追い込まれ、深刻な統治危機に直面した者の最後のあがきである。

南朝鮮一味が「北人権法」作成に躍起になって執着しているのは、われわれの先軍の威力に押されて、主人の米国と結託して追求してきた軍事的対決策動で侵略目的を達成できなくなるや、陰謀と民心かく乱の方法でわれわれの制度を内部から崩そうとするところにその凶悪な下心がある。南朝鮮一味がいわゆる「北人権法」作成のような茶番で自分らの不純な目的を達成できるとするのなら、これより愚かな妄想はない。

人間を最も重んじるチュチェ思想を指導理念にしており、人間の真の権利を最上の境地で享受できるようにする人民大衆中心の朝鮮式社会主義制度は、既にその優位性と強固さ、不敗性を遺憾なく誇示したし、こんにち、より燦爛たる未来に向かって上昇の一途をたどっている。核兵器よりも威力あるわれわれの一心団結は、ありがたい制度を命懸けで守ろうとするわが人民の信念の結晶体であり、何をもってしても壊すことはできない。社会主義を生命とするわが軍隊と人民は、南朝鮮一味の犯罪的な「北人権法」作成策動を決して袖手傍観しないであろうし、それをあくまでもつくり上げる場合、わが制度、わが人民に対する公式の宣戦布告、第2の「標的事件」と見なし、無慈悲で断固たる対応を取っていくであろう。

特に、「北人権法」の作成に直接加担したり、支持、協力した者については反民族犯罪行為の加担者と認め、絶対に放っておかないし、今後、わが方地域に一切足を踏み入れられないようにするのは言うまでもなく、いつまでも恥と厳罰を与えるであろう。

南朝鮮保守一味は僭越にも、ありもしないわれわれの「人権問題」をうんぬんして反共和国悪法づくりに執着する前に、世界最悪の人権廃虚地帯に転落した南朝鮮の人権法でもしっかりつくって生存権を求めて立ち上がった人民に対するファッショ的弾圧と人権じゅうりん行為を中止し、反共和国対決策動と人権謀略騒動を直ちに中止しなければならない。

万一、われわれの警告にもかかわらず、反共和国悪法作成策動に引き続き執着することによって招かれ得る想像できない重大な結果に対する全責任は、南朝鮮一味自身が負うことになるであろう。

● 朝鮮人民軍最高司令部代弁人声明（6月29日）「千万軍民の無慈悲な銃で逆賊一味の特大型挑発行為を押しつぶす」

最近になって、李明博逆賊一味の反共和国対決騒動はこれ以上そのまま放っておくことのできない危険ラインを越えている。その代表的な事例が前線中部かいらい5軍団3歩兵師団をはじめ、前線部隊で再び現れたわれわれの最高の尊厳に対する重大な中傷、冒とく行為であり、わが軍隊と体制を中傷する意図的な挑発事件である。

数多くのかいらい軍兵営と哨所、軍事施設物とその周辺道路の案内看板と垣にまで書いて掛けた極悪非道なスローガンと垂れ幕はただ、逆賊一味だけが繰り返し広げられる反民族的でヒステリックな狂気であり、トウロウの斧のごとく襲いかかろうとする無知の無頼漢の特大型挑発である。

現事態は、われわれの最高の尊厳をむやみに冒とくし、神聖な体制を中傷する好戦的で悪らつな挑戦行為が昨日や今日ではなく、以前から李明博逆徒と軍部無頼漢のシナリオによって計画的に準備され、系統的に推進されてきたということをそのまま示している。

いかほどであれば、南朝鮮の住民まで「驚愕をそそる行為」「他人みんなをぞっとさせる無分別な行為」「原色的な同族対決助長陰謀」「60、70年代の戦争の雰囲気をもたせた精神病者の振る舞い」と糾弾していようか。

事態の深刻さは、後を絶たないこのような特大型挑発事件がかいらい軍部の幾人かのならず者の個別的な行為ではなく、逆賊一味の「国策」、かいらい軍部好戦集団の反共和国敵対感鼓吹「指針」として繰り返し広げられているところにある。

このごろ、「青瓦台」内で李明博逆徒が時を分かつ吐いている骨髓に徹した同族対決悪口と、かいらい国防部長官金寛鎮をはじめ軍高位級の勤務室ではばかりのことなく行われているわれわれ

の最高の尊厳き損謀議がそれをよく示している。

わが軍隊と人民は、内外を驚がくさせる逆賊一味のこれらすべての極悪非道な反民族的、反共和国対決妄動を千秋に許しがたい万古大逆罪に、われわれに挑戦してきた露骨な軍事的挑発として非常事件化せざるを得ない。

朝鮮人民軍最高司令部は、千万軍民のこみ上げる激しい怒りと復しゅう心を反映して、今この時刻から民族の前に特大型犯罪だけを積み重ねている逆賊一味の無分別な行為を共和国に対する新たな宣戦布告と見なし、それ相応の軍事的報復措置を取るようになるであろう。

不俱戴天の敵がまさに李明博逆賊一味であり、もっぱら銃で一掃しなければならない反逆の群れが他ならぬかいらい軍部好戦狂である。

わが軍隊と人民が取る強力な軍事的報復措置は、逆賊一味がわれわれの最高の尊厳を冒とくし、われわれの体制と軍隊を誇るあらゆる行為を痕跡もなくし、民族の前に謝罪するときまで手段と方法を選ばず、容赦なく断行されるであろう。

北南関係の線で今まで取ってきたわが軍隊の同胞愛的な軍事的保障措置は、かいらい当局と軍部好戦狂に対する朝鮮式の強い制裁措置に転換されるであろう。

天下にまたとない対決狂信者らが、われわれに戦争まで辞さない極端な挑発をあえて仕掛けてきた以上、北南間にはただ火と火が交わる物理的決算だけが残っている。

対決狂信者らは、わが軍隊と人民の峻厳な銃の味がどんなものなのかをこれからはっきり味わうことになるであろう。

この世の誰も、わが軍隊と人民の心臓に沸き立つ百倍、千倍の報復の一念を阻むことはできない。われわれの忍耐力にも限界がある。

われわれの尊厳高い社会主義体制を拒否したあげく、無作法にも空に手を振るうならず者らに与えられるものは民族の峻厳な鉄槌だけである。

われわれの千万軍民は、容赦ない報復の銃で逆賊一味の無分別な特大型挑発行為を粉碎し、全民族の悲願である祖国統一の歴史的偉業を必ず、早めて成就してやまないであろう。

● 祖国平和統一委員会：北を冒瀆する標語で青瓦台への通知文公開（6月29日）

最近、南朝鮮かいらい軍の「白骨部隊」をはじめ前方部隊がわれわれの最高の尊厳とわれわれの体制、わが軍隊を悪辣に冒瀆する極悪な挑発行為を働いているのに関連して祖国平和統一委員会（祖平統）は29日、板門店を通じて南朝鮮当局に緊急通知文を送ろうとした。しかし、蛇にかまれて朽ち縄に怖じるというように、自分らが犯した罪によって後ろめたいかいらい当局は、不当な口実を掲げて通知文をとうとう受け取らなかった。こうした状況で、祖平統は南朝鮮の青瓦台に宛てた通知文を公開することにした。通知文には次のように指摘されている。

南側メディアによると、南朝鮮の江原道鉄原にある「白骨部隊」（第5軍団第3歩兵師団）をはじめ前方部隊が兵営と哨所、軍事施設物と柵にわれわれの最高の尊厳とわれわれの体制、わが軍隊を甚だしく冒瀆する標語を掛けて極端な反共和国敵対感を鼓吹している。

これは、永遠に許せないもう一つの特大型挑発事件であり、われわれに対する宣戦布告である。

われわれは前回、南側軍部がわれわれの最高の尊厳に抵触する標的事件を挑発した時、その重大さを指摘して即時の謝罪と首謀者処罰、再発防止措置を強く求めた。それに対して南側は、「適切でないこと」であったし、「管下の部隊に当該の措置」を講じたとわが方に事実上の謝罪の意を表明した。にもかかわらず、南側は今回再び極悪な挑発行為を働いたことで、それが全てうそであったし、挑発の張本人はほかならぬ青瓦台と軍部上層部であることを自らさらけ出した。

南側は今回の挑発行為について直ちに謝罪し、首謀者を厳罰に処し、不純な標語を全て撤去して分別のない挑発的狂乱を即時中止しなければならぬ。もし、南側がわれわれの最高の尊厳とわれわれの体制、わが軍隊を冒瀆する挑発行為を引き続き放任する場合、われわれは声明を通じて既に宣明した通り全面的な軍事報復と無慈悲な懲罰措置で断固対応するであろう。

◇ 朝鮮半島日誌 (2011. 5. 20 ~ 2011. 6. 30)

- 5.20 金正日総書記が中国を非公式訪問。(～26 日)
- 5.20 南朝鮮統一部、6.15 共同宣言実践南側委員会の共和国北半部への訪問申請を不許可。
- 5.22 中国の温家宝首相、記者会見で「対話と協議だけが朝鮮半島問題を解決する最終的な活路になる」。
- 5.24 米國務省代表団(団長:ロバート・キング人権・人道問題担当特使)が朝米間の人道問題を協議するため平壤に到着。
- 5.24 アフリカ連合(AU)のジャン・ピン委員長と金赫哲 AU 駐在朝鮮常任代表が会見。
- 5.25 金正日総書記、中国の胡錦濤主席と北京で会談。
- 5.25 朝鮮中央通信、最高人民会議常任委員会の政令によりチェコ駐在朝鮮大使に李光日氏が任命と報道。
- 5.25 米国アジア・ソサエティー代表団(団長:ビジャカ・デサイ会長)が 25 日、空路平壤を離れた。
- 5.26 最高人民会議常任委員会の楊亨燮副委員長を団長とする朝鮮代表団がナイジェリアをはじめアフリカ諸国を公式親善訪問するため平壤を出発。
- 5.28 反共和国犯罪行為を働いた容疑で 2010 年 11 月に逮捕された米国公民チョン・ヨンス氏が釈放され、ロバート・キング人権・人道問題担当特使らとともに平壤を出発。
- 5.28 朝鮮中央放送委員会代表団(団長:キム・パルリョン副委員長)が中国を訪問するため平壤を出発。
- 5.30 朝鮮国防委員会スポークスマン、「李明博一味をこれ以上相手にしない」との声明。
- 5.31 朝鮮労働党の金永日書記、フランスの各政党所属上院議員らによる朝鮮研究グループ代表団(団長:社会党所属上院議員で上院フランス朝鮮研究グループ委員長のジャンクロード・フレコン氏)と平壤で会見。
- 5.31 最高人民会議常任委員会の政令により李務榮氏が副総理に新たに任命。
- 5.31 朝鮮金剛山国際観光特区法が新たに採択。
- 6. 1 金永日書記、ハサン・ラベビ駐朝アルジェリア新任大使と平壤で会見。
- 6. 1 6.15 共同宣言実践北側・南側・海外側委員会が 6.15 共同宣言実践民族共同委員会報道文を発表。
- 6. 1 朝鮮国防委員会スポークスマン、南朝鮮が北京秘密接触で「首脳会談」を提案していたことを明らかに。
- 6. 2 金永南委員長、ユスフ・アムダ・アブバカル駐朝ナイジェリア大使と平壤で会見。
- 6. 2 朴宜春外相、ハサン・ラベビ駐朝アルジェリア新任大使とヘレン・マムレ・コフィ駐朝ガーナ新任大使、ユスフ・アムダ・アブバカル駐朝ナイジェリア大使と各々会見。
- 6. 2 金永日書記、レ・クエン・バ駐朝ベトナム新任大使と会見。
- 6. 3 朝鮮人民軍総参謀部スポークスマン、「最高尊厳標的射撃で軍事的報復行動に入る」との声明。
- 6. 3 金永南委員長、フランス朝鮮研究グループ代表団と平壤で会見。
- 6. 4 朝鮮中央通信「インドネシア駐在朝鮮大使にリ・ジョンリユル氏が任命。」
- 6. 4 米国を訪問する朝鮮テコンドー委員会テコンドー示範団(ペ・スンマン副委員長)が平壤を出発。
- 6. 4 楊亨燮副委員長を団長とする朝鮮代表団、赤道ギニアで同国のテオドロ・オビアン・ヌゲマ・ムバソゴ大統領と会見。
- 6. 6 朝鮮最高人民会議常任委員会、同日付の政令第 1693 号で黄金坪・威化島経済地帯設置を発表。
- 6. 7 朝鮮最高人民会議常任委員会の金永大副委員長、ベトナム親善代表団(団長:ベトナム朝鮮親善協会のファム・トッ・ゾン委員長)と平壤で会見。
- 6. 7 朝鮮ベトナム親善慶上幼稚園とベトナム親善幼稚園との間の交流と協力に関する合意書が平壤で調印。
- 6. 8 朴宜春外相、マルタ・オルティス・デロサス駐朝メキシコ新任大使と会見。
- 6. 9 朝鮮国防委員会政策局代表、南側が北京秘密接について捏造を続けるなら「接触の全過程に対する録音記録を全世界に公開せざるを得なくなる」と表明。
- 6. 8 黄金坪・威化島経済地帯の朝中共同開発および共同管理プロジェクトの着工式。
- 6. 8 中国の遼寧省と吉林省で、羅先経済貿易地帯と黄金坪・威化島経済地帯共同開発および共同管理のための朝中共同指導委員会第 2 回会議。
- 6. 9 羅先経済貿易地帯の朝中共同開発および共同管理プロジェクトの着工式。
- 6. 9 朝鮮民主女性同盟代表団(団長:チェ・チュンヒ副委員長)、中国の全国人民代表大会常務委員会副委員長である中華全国婦女連絡会の陳至立主席と北京の人民大会堂で会見。
- 6.10 中国共産党代表団(団長:中国共産党政治局員で書記局書記の李源潮組織部長)が平壤に到着。
- 6.10 平壤で、朝鮮労働党代表団と中国共産党代表団の戦略対話。
- 6.11 朝鮮テコンドー委員会テコンドー示範団が米マサチューセッツ州ボストン市内で 1 回目のエキシビション。

- 6.12 金永南委員長、中国共産党代表団(団長:中国共産党政治局員で書記局書記の李源潮組織部長)と平壤で会見。
- 6.12 金永日書記、中国共産党の王家瑞対外連絡部長と平壤で会談。
- 6.13 金正日総書記、中国共産党代表団と平壤で会見。
- 6.14 朝鮮中央通信「朝鮮で社会主義憲法第 139 条と地方人民委員会の決定に従って、道(直轄市)・市(区域)・郡人民会議代議員選挙が 7 月 24 日に実施される。」
- 6.15 朴宜春外相、スイス外務省代表団(団長:ベアト・ノブス国務副書記)と平壤で会見。
- 6.15 6.15 共同宣言実践民族共同委員会、「6.15 精神で固く手を取り、民族の和解と団結、平和と統一の新たな局面を力強く開こう」と題するアピールを発表。
- 6.15 金永日書記、イタリア左翼人民共産主義者党のアルフォンソ・ガルディ国際部長一行と平壤で会見。
- 6.16 国際民主婦人連盟第 15 回大会準備会議(エルサルバドル)に参加する朝鮮民主女性同盟代表団(団長:チェ・チュンヒ副委員長)が平壤を出発。
- 6.18 朝鮮中央通信「最高人民会議常任委員会の政令によりドイツ駐在朝鮮大使にリ・シホン氏が任命。」
- 6.19 朝鮮の遂安青年 2 号発電所が竣工し、操業を開始。
- 6.20 中国吉林省青年親善代表団(団長:中国共産主義青年団吉林省委員会の張晶瑩書記)が平壤に到着。
- 6.21 イタリア朝鮮の自主政治研究代表団(団長:テレアンビエンテ・テレビ放送局のブルーノ・デビタ局長)が平壤に到着。
- 6.22 パキスタン外務省代表団(団長:ムハンマド・ジャムシェイド・イフティカール・クレシ総局長)が平壤に到着。
- 6.23 朴宜春外相、セルジョ・メルクーリ駐朝イタリア新任大使と平壤で会見。
- 6.23 AP 通信社の招きで米国を訪問する朝鮮中央通信社代表団(団長:金炳鎬社長)が平壤を出発。
- 6.23 中国を訪問する朝鮮労働党平壤市委員会親善参観団(団長:リ・ヨンシク平壤市平川区域党責任書記)が平壤を出発。
- 6.24 朝鮮各級人民会議代議員選挙法に基づいて、道(直轄市)・市(区域)・郡人民会議代議員選挙のための選挙区・分区が設置
- 6.24 中国遼寧省党および政府代表団(団長:中国共産党遼寧省委員会副書記である遼寧省人民政府の陳政高省長)が平壤に到着。
- 6.25 ロシアを訪問する朝鮮財政省代表団(団長:キ・グァンホ次官)が平壤を出発。
- 6.25 アジア・アフリカ法律諮問機関第 50 回会議(スリランカ)に参加する朝鮮代表団(団長:キム・ソンギ外務次官)が平壤を出発。
- 6.25 世界保健機関(WHO)東南アジア地域第 64 回総会(インド)準備のための高位級会議と第 4 回計画開発および管理会議に参加する朝鮮保健代表団(団長:李峰訓保健次官)が平壤を出発。
- 6.27 崔永林総理、中国遼寧省党・政府代表団と会見
- 6.28 ビクトル・エリセーエフ団長が率いるロシア内務省内務軍アンサンブルが同日、空路平壤に到着。
- 6.30 エーリンダ・ファデラ・バシリオ次官を団長とするフィリピン外務省代表団が 30 日、空路平壤に到着。